

41th アビリンピック ★ ABILYMPICS



第41回

全国障害者
技能競技大会
報告書

WE ARE!!
我々を見よ



- 洋裁
- 家具
- DTP
- 機械CAD
- 建築CAD
- 電子機器組立
- 義肢
- 歯科技工
- ワード・プロセッサ
- データベース
- ホームページ
- フラワーアレンジメント
- コンピュータプログラミング
- ビルクリーニング
- 製品パッキング
- 喫茶サービス
- オフィスアシスタント
- 表計算
- ネイル施術
- 写真撮影
- パソコン組立
- パソコン操作
- パソコンデータ入力
- 縫製
- 木工
- クラフトテープかごバッグ製作
- OA機器等メンテナンス



独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

はじめに

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

理事長 湯浅 善樹



「アビリンピック」の愛称で親しまれている全国障害者技能競技大会は、障害のある方々が日ごろ培った技能を競い合うことにより、職業能力の向上を図るとともに、企業や社会一般の人々が障害のある方に対する理解と認識を深め、その雇用の促進を図ることを目的とする技能の祭典です。

第41回となった今回の大会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、参加者を選手及び関係者に限定しての開催となったものの、「東京に 光るその技 開く夢」のスローガンのもと、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」の熱気を引き継いで、全国から集結した高い技能を持つ方々にその技能を大いに披露していただきました。

今大会では、25技能競技種目を実施し、全国から370名の選手にご参加いただきました。また、技能デモンストレーションとして「クラフトテープかごバッグ製作」、「OA機器等メンテナンス」を実施しました。

昨年に引き続き競技風景及び開閉会式はウェブ上でライブ配信を行い、ウェブアクセス数は約11万件を超えるなど直接会場にお越しいただけなかった方をはじめ、多くの方々に参加選手の競技に懸ける熱意や、技術の高さをご覧いただけたと思います。

実際にライブ配信をご覧いただいた方々からは、「初めてこのような大会があるのを知りました。もっと沢山の方々にこんなにも素晴らしい技術を持った方々が頑張っている姿を知って頂きたいと思いました」、「様々な障がいのある方でも、自分ができる最大限の力を発揮してひたむきに努力している姿を目の当たりにして感動しました」などの感想をいただきました。

また、大会会場には、令和2年度にアビリンピックの親和性向上のため公募し、応募総数508作品の中から選ばれたアビリンピックマスコットキャラクター「アビリス」が登場し、大会を盛り上げてくれました。

選手の皆様には、今大会に参加し、競技に全力で臨んだことを誇りとして、職場や地域などで今後も一層活躍されることを期待するとともに、今大会の共催である東京都をはじめ、ご協力をいただいた厚生労働省、団体、企業、関係機関の方々に対して心からお礼を申し上げます。

序

はじめに	1
目次	2
会場・開会式・選手宣誓	4
技能競技	6
大会の様子	60

第41回全国障害者技能競技大会

I 概要

1 実施内容	63
2 運営に当たっての支援	65

II 開催準備

1 技能競技・技能デモンストレーション	66
2 障害者ワークフェア2021	69
3 開催県における準備状況	70

III 開催の状況

技能競技・技能デモンストレーション	72
-------------------	----





資料

I 第41回全国障害者技能競技大会関係資料

1 開会式・閉会式挨拶等	74
2 表彰者数一覧	78
3 表彰者名簿(賞別・技能競技種目別・技能デモンストレーション職種別)	79
4 技能証授与対象者名簿	85
5 技能競技種目別参加選手名簿及び技能デモンストレーション職種別参加者名簿	87
6 技能競技種目別・都道府県別技能競技参加選手数一覧	96
7 技能競技種目及び技能デモンストレーション職種別・障害別・年齢区分別技能競技参加選手数一覧	98
8 手話通訳者及び要約筆記者配置数一覧	99
9 技能競技種目及び技能デモンストレーション職種別実施時間一覧	100
10 技能競技種目別使用機器等一覧表	102
11 第41回全国障害者技能競技大会実施要綱	106
12 第59回技能五輪全国大会及び第41回全国障害者技能競技大会における 新型コロナウイルス感染拡大防止のための具体的な措置	115
13 各種委員会委員名簿	125
14 技能競技種目別専門委員等名簿及び技能デモンストレーション職種別実施スタッフ名簿	126
15 技能競技実施機器等協賛企業等	131

II 全国障害者技能競技大会統計資料

1 全国障害者技能競技大会の沿革	132
2 全国障害者技能競技大会実施要綱の変遷	133
3 技能競技種目等別参加選手数の状況	136
4 都道府県別参加選手数の状況	138
5 技能競技種目等別受賞者数の状況	140
6 都道府県別入賞者数の状況	146
7 大会別開催期間・会場一覧	150
8 障害者ワークフェア実施状況	151



会場・開会式・選手宣誓 (Web配信)







会場下見・事前説明・工具確認

技能
競技







■ 参加選手数 5名

■ 協賛企業等

JUKI JUKI販売株式会社

公益社団法人全日本洋裁技能協会

競技課題は、薄手ウールを使用したオーダー仕立ての「オーバーブラウス」の製作です。選手には粗裁ちした布地が支給されますので、競技では裁断→芯貼り→印付け→本縫いミシン→アイロン→ロックミシンの順で作業を進めます。接着芯はしっかり貼り、前身頃丈の長さ、袖付け、衿付けが左右対称であることが重要です。オーダー仕立てのため、裾などの折上げ(ヘム)は手まつり、ボタンホールも手でかがります。



金賞受賞者の感想

藤澤 勇慈 東京都

初めて参加した愛知大会では、銀メダルを受賞しました。

しかし、「金メダル該当者無し」だったことは、とても悔しく思いました。

今回、再度挑戦の機会を得ることができ、金メダルをとることが出来て、とても嬉しく、ホッとしました。

6時間という制限時間の中で、オーダーメイドの仕上がりを実現するため、時間内に仕上げる練習だけでなく、襟や袖付け、ボタンホール、肩パット付けなどの部分練習も重ねました。正確で美しく、ソフトな仕上がり、いつも出来るように努力しました。

生地と向き合い、糸の始末、アイロンがけなども丁寧に、美しいシルエットを心がけました。

洋裁は私にとり、大切な自己表現の一つです。大会に向けては、同じことを繰り返す練習でしたけれど、一回一回完成度を高めていくなかで、自分自身が成長できたと感じています。

日頃から熱心にご指導くださっている洋裁の先生に、心から感謝しています。

競技会場では、たくさんのスタッフの方々のお世話になりました。

電気の回線のトラブルにもすぐに対応していただき、アイロン・ミシンなど、スムーズに使うことができ、競技に集中出来ました。ありがとうございました。

いつも応援してくれている両親に感謝しています。

これからもさらなる技術の向上と、カッコいいデザインの作品づくりに、情熱をかけて取り組んでいきます。



講評

主査 佐藤 富子

第41回競技大会は「東京に 光るその技 開く夢」のスローガンのもと、12月17日(金)～20日(月)に東京ビッグサイトで、選手及び関係者のみによる開催、ライブ配信で技能五輪大会と同時に開催されました。

今回の課題はテーラーカラー・長袖・パッチポケット付きオーバーブラウスの製作で、生地は薄手ウール、時間は午前2時間、午後4時間の6時間に設定いたしました。

選手5名はスタートから落ち着いて、淡々と作業を進め、時間内に全員完成しました。久しぶりに完成度は高く、技術の習得に励んでこられたことが、きれいに仕上がった作品から見受けられました。

各選手とも素晴らしい出来栄えで感激いたしました。

金賞をとられた30代の選手は、工程の中で一つひとつ確認し、納得しながら作業を進めておられました。この選手は本番前に「今回は30着縫いました」と話され、その努力が結果につながったと満足されていました。

また、銀賞の60代の方は過去に韓国国際大会に出場の経験があり、さすがに衿と袖は見事に仕上がっていました。

銅賞、努力賞、その他の方たちの注意すべき点は次の通りです。

- 1、見た目が美しいオーダー仕立てのソフトな仕上がりが求められます。
- 2、ポイントは表衿と見返しゆとのり入れ方。衿とラペルの形状、左右のバランスが大切です。
- 3、袖付けは左右反対方向からミシンを掛けるので、袖のふりにも注意が必要です。
- 4、アイロン使いでは、蒸気を出して掛けたその部分の蒸気をしっかり取る。中途半端な掛け方は生地が戻りしわになり易いです。

以上の点に気を付けて、次回もご活躍されることを期待致しております。

末尾になりますが、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構の皆様には大変お世話様になり、今回も競技大会を無事に務めることができました。

心より感謝と御礼を申し上げます。



- 参加選手数 4名
- 協賛企業等
- 東京都立城南職業能力開発センター

競技課題は、「花台」の製作です。木製の家具は、構造的に大きく分けると、たんす、食器棚などの「箱物家具」と、椅子、ソファなどの「脚物家具」に分けることができます。競技課題の「花台」は、「箱物家具」と「脚物家具」の特徴的な構造である「板と板の接合」や「角材と角材の接合」の要素が課題の中に含まれています。のこぎり、のみ、かんなどの手工具や木工機械を駆使して、図面に基づき正確で見栄えの良い作品を完成することが求められます。

技能競技
家具



👑 金賞受賞者の感想 新倉 政亮 鹿児島県

私は、幼少期から兄の影響でプラモデルなどを作ることで、ものづくりが好きになりました。中学部の時に、高等部の先輩方がアビリンピック大会に参加し、いい成績を収める姿を見て、「自分もいつか参加して金賞を取りたい」と決心しました。7月に家具部門の県代表となり、念願の全国大会の出場が決定しました。

毎年、夏休みから練習が始まっていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により9月からの練習になりました。思っていたより競技内容が難しく、当初は夜の8時まで練習するのに体が追い付いていけませんでした。しかし、諦めずに努力を続け、制限時間内に仕上げられるようになり、最後の練習では納得のいく作品が出来ました。

大会会場の東京ビッグサイトは、とても大きく、多くの人々が集まっていて、緊張感もあり上手くできるか不安になりました。本番前夜、両親や友達からの励ましの言葉をもらい、「いい結果じゃなくても、練習の成果だけはしっかり発揮しよう。」と思い、本番に臨みました。

先生から言われていた「平常心」を大事にし、手順、正確さを意識しました。前半は予定時間内に終わったのですが、後半、慣れない機械等を使用することもあり、少し遅れが出始めました。しかし、「平常心」を思い出し、落ち着いて制限時間内に終わらせることが出来ました。脚の仕上がりが上手いはず、少し悔しかったです。それ以外の課題はクリアしていたので、あとは結果を待つのみでした。

次の日、空港で結果発表の中継を見て、まさかの金賞だったので、とても嬉しかったです。この結果になったのも、もの作りを好きになるきっかけを作ってくれた兄、応援してくれた両親や友達、指導をしてくださった先生方など、周りの皆様のおかげだと思います。

これからの学校生活や卒業後も、この大会を通して経験して得たことを十分に生かして、色々なことに挑戦していきたいです。



講評

主査 小山 真子

家具職種の競技課題のレベルは、技能検定「2級家具製作(家具手加工作業)」課題と同程度となっています。競技課題は、板物の「甲板」と角材の「脚部」からなる「花台」を製作します。競技課題に現寸図(脚部の側面図)作成が加わり、4年目となる今年は、墨付け時や仮組み時の確認に活用する姿が定着し、寸法精度が高くなってきました。

今年度の東京大会では、4名の選手が技を競い合い、全員が競技時間内に完成させることができました。厳正な審査の結果、金賞1名、銅賞2名、努力賞1名の受賞となり、次にあげる3点が評価につながりました。

1点目は、現寸図を用いて確認する要点が整理され、形状寸法の精度が高くなったこと。2点目は、加工精度が正確になり、接合部の割れや、貫通穴によるミスが無く、仕上がりの減点がなかったこと。3点目は、接着剤の硬化時間を考慮した作業工程を理解し、時間内に完成させる意識が高くなったことが挙げられます。

競技後の総評時に甲板と脚部の接合部の木ネジ部分について触れましたが、甲板と脚部を隙間なく取り付けるためには、脚の上端の木口と脚と脚を連結する幕板の上端が同一面上に加工されている必要があります。そのためには、木口台の活用や、平かんな(中仕込みかんな)や長台かんなを用いた回し削りの技量を上げると、より美しい仕上がりとなります。

以上のことを参考に、指導者の方は、手工具の目的にあった適切な使用方法や調整方法を再考し、日々の技能研鑽を通じ選手の自ら考える力や工夫する力を育ててください。

結びに、世界中が先行きの見えない時代、家具職種競技に挑戦した選手に敬意を払うと共に、指導者の皆様、選手を支える周りの皆様、大会関係者に心から感謝いたします。



■ 参加選手数 18名

■ 協賛企業等



競技課題は、選手が所属する各都道府県の「知られざる観光スポット」紹介リーフレットを制作するものです。今回の競技課題は、選手の所属する各都道府県であまり知られていないが、美しさや伝説があり、魅力あるスポットの紹介をテーマとした「B4二つ折りリーフレット」のデザインの制作です。



金賞受賞者の感想

生藤 貴博 高知県

高知県代表選手として第41回全国障害者技能競技大会金賞及び厚生労働大臣賞という素晴らしい賞を受賞させていただけたこと、身に余る光栄です。私にとりましては望外の賞で驚くばかりの恵みと感じています。

私が参加したDTP競技の課題内容は「代表する県の知られざる観光名所のリーフレット作成」というものでした。事前準備が必要な課題内容でしたので、制作にあたって力をいれたことは取材です。観光名所を安芸市の伊尾木洞に定めて現場に行ったことにより、多くの魅力に触れることができた為ビジョンが明確になりました。準備などを含めて大会当日に惑うことなく制作できたのはこの取材が功を奏した事と感じています。

また、競技前に他の競技を見学することができ、大いに力と刺激を受けたことも当日のモチベーション向上につながりました。したがって、全国大会出場を目指す方々には大会のライブ配信や過去大会の様々な競技の様子を鑑賞することをお勧めしたいです。過去、美術の恩師に「良い作品を観なさい、そうすれば上手くなるから。」とよく言われました。伊尾木洞の魅力と大会の熱気を直に観たことにより成果が出せたと思います。

しかし、何よりも家族の支えがあってこそこの作品、受賞です。障害を負ってから家族に心配や迷惑をかけ続けてきました。今日まで守られ、生きてこのような素晴らしい賞を受賞し、報告できたことを大変嬉しく思っています。また、多分のご支援をいただいている事業所、応援してくれていた友人に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



講評

主査 千知岩 浩一

今回のDTP種目の競技課題は、「競技者が所属する各都道府県の『知られざる観光スポット』紹介リーフレットの制作」でした。

競技者の所属する各都道府県であまり知られていないが、美しさや伝説があり、魅力あるスポットの紹介をするリーフレットの制作として、参加18名の選手で競ってもらいました。社会的にも不安定な状況の中で各選手それぞれに準備に取り組み、持てる力を遺憾なく発揮されたことと思います。

今年度は競技者のデザイン力を問う課題形式として、課題内容のすべてを事前に公表するやり方に変更しました。昨年までは限られた競技時間の中での制作であったため、デザイン案をじっくり検討する余裕もなくイラスト等の制作にも時間をかけることが難しかったのですが、今回は事前に課題内容が提示されたことでじっくりと構成を検討した上でイラスト等の作り込みにも存分に時間をかけることができたため、新たな意欲をもって挑戦ができたことと思います。

近年DTPの傾向としては、印刷物に仕上げるデータ作成の確かな技術と優れたデザインが要求されています。各地域の特色を生かした観光ポスターとして、質・インパクトの付与を念頭に置きながら、自由な発想の下でオリジナリティに溢れた作品が数多くみられたことは、今後に向けても大きな期待が持てると思っています。

今回の競技結果は、金賞・銀賞・銅賞・努力賞が各1名となりました。コロナ禍の中での選手及び関係者のみ参加での開催といった状況にも拘らず、僅差を競い合う高水準の作品が多数並ぶ中で、趣旨を理解しきちんと作り込まれた作品が選ばれた結果となりました。参加者の技術レベルは年々確実に向上しており、今後も楽しい結果であったことを申し添えておきます。

最後となりますが、競技を無事終了できましたことは、競技専門委員会をはじめとした主催者並びに東京都関係の方々のご多大なるご支援とご協力の賜物と、深く感謝申し上げます。

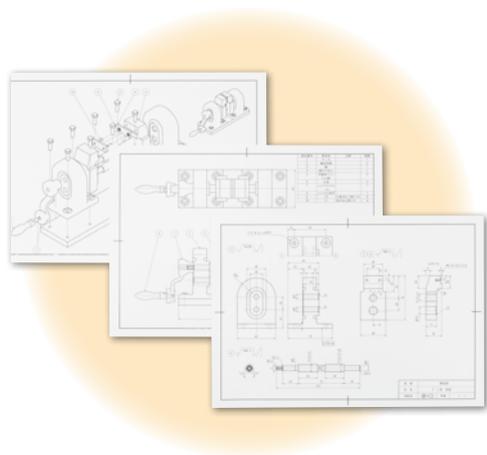


■ 参加選手数 2名

■ 協賛企業等



競技課題は、「バイス(万力)」の部品図、組立図、立方分解図の作成です。これまでの製図作業は、製図板と呼ばれる台に、用紙を貼り付け、鉛筆やインクで、三角定規、コンパスなどを駆使しながら手書きをするのが一般的でした。近年では、コンピュータ支援設計ツール(ComputerAidedDesign(CAD))を用いて、機械の設計図面を作成しています。CADの導入により、これまで人の手に頼っていた製図作業や図面作成などが、より正確に効率よく行えるようになりました。今回の競技では、はじめに与えられた組立図、部品図を読図して品物を立体的に把握します。次に、3次元CADツールを使ってモデルを作成します。その後、指示された通りにCADで作図、寸法記入などを行い、図面として完成させます。





講評

主査 池田 知純

第41回大会は、コロナ禍の中で選手及び関係者のみの参加により開催されました。

機械CAD職種には、2名の選手が参加し競技が行われました。競技時間3時間の中で、選手は部品図と組立図を読み図して3次元部品モデルの作成、作成したモデルと配布部品モデルとのアセンブリ作業、部品図・組立図・立体分解図の作図を行います。

課題に取り組むにあたり、選手には機械の構造と動きを理解すること、課題図面を読み図し機械製図のルールに則って正確に図面を描くことが求められます。また、効率よく作業をすすめる上でCAD機能を使いこなすスキルが必要となります。

今大会の競技課題は、バイス(万力)でした。前回大会までは、主にCAD操作スキルとトレーススキルを評価する課題でした。本大会では部品点数を少なくし、機械設計の実務的作業に求められる機械製図の知識と機能を実現するための拘束条件を問う内容を新たに加えました。

選手及び関係者のみでの競技でしたが、選手は熱心に最後まで競技に取り組んでいました。競技結果は、銅賞1名という成績でした。受賞作品は、細かなミスによる減点はありましたが部品図・組立図・分解図を完成させました。入賞を逃した選手は、使い慣れていないソフトウェアでの操作に苦心していましたが、受賞者と遜色ない技能を有していました。選手の皆様には引き続き、機械CADスキルの向上と機械製図の知識・技能の習得に努めていただき、次へのチャレンジにつなげて欲しいと思います。

最後になりましたが、選手、選手の付添者、専門委員、競技補佐員、大会関係者の方々のご協力により、無事に大会を終えることができましたことを心より感謝申し上げます。

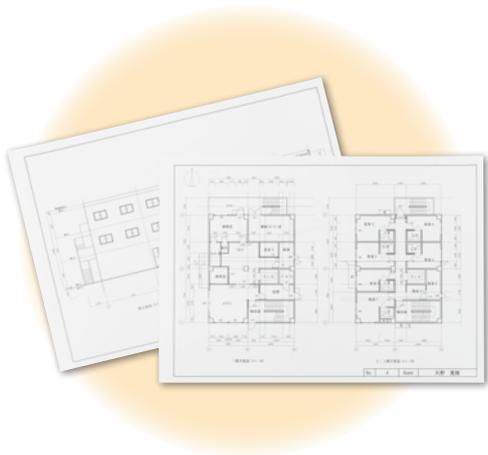


■ 参加選手数 6名

■ 協賛企業等



コンピュータの普及と共に、建築CADが建築業界でも使われ始めました。今日の建築業界では、手書きの図面に替わりCADを使って描かれた図面が、一般的になっています。建築CADは、図面を描くためのソフトウェアとコンピュータ、そして図面を紙に印刷するプリンタから構成されています。そのため、製図板を使った設計とは道具の構成が大きく異なります。この競技では、建築の設計者が描いたスケッチや構造の情報を理解し、建築CADを用いて建築基本設計図を作成する作業の正確さと速さを競います。そのため、選手には、コンピュータと建築CADソフトウェアに関する知識と操作技術、建築図面の読解力と製図規則に関する知識を必要とします。選手は、建築CADを用いて、集合住宅を目的とした鉄筋コンクリート造3階建てビルの図面(縮尺1/100の平面図、立面図、断面図)をA3の用紙1枚に仕上げます。





講評

主査 和田 浩一

建築CAD競技は、6名の選手が参加して行いました。課題は、建築汎用2次元CADシステム(AutoCADあるいはJW_CAD)を用いてA3版用紙2枚に鉄筋コンクリート造3階建て1/100の図面(各階平面図、立面図、断面図)を描き上げ、図面としての作品を作製するものです。各階平面図と断面図には、詳細な寸法の情報が記載されていないため、同時に配布する構造部材リスト、建具リスト、建築設備リスト、外部階段詳細図を参照しながら総合的に判断して図面を描き上げなければなりません。

今年は、小規模な3階建てホテルを課題としました。1階は、事務室、厨房、レストラン、機械/ボイラー室、エレベーター等を備え、2階と3階は、客室、バンダー、リネン/倉庫、屋内・屋外階段となっています。描く図面もA3版2枚のため、線の量が多く難易度が高くなっています。

競技の結果、1人の選手が銀賞となりました。今年のような課題に対応するためには、直ぐに作図したくなる気持ちを抑え、しっかりと図面を読み込み、如何に効率良く作図を進められるか十分に検討する必要があります。2階の図面は、コピー元となる客室の完成度を上げて作り込み、コピーや反転コピーを駆使しながら描きます。また、今年は建具のデータを配布しなかったため、建具も自ら描かなければなりません。そのため、建具を1つ作った後に変形しながら、全ての建具を一気に作り上げておくことも必要です。建具をその都度つくるとCADツールを選択するために多くの時間を費やしてしまいます。CADツールの変更を可能な限り少なくすることが速く描き上げるための大きなポイントです。その他、レイヤー管理も編集(包絡処理や線分の部分削除など)の効率化に影響します。銀賞となった選手は、これらのことが上手くできていました。これらのことをトレーニングすることで金賞、あるいは入賞が期待できます。次の大会での選手の活躍を期待しています。

最後に、競技を無事に終えることができたことを選手及び選手に指導されている指導員の方、大会関係者、競技スタッフの方々に心から感謝いたします。

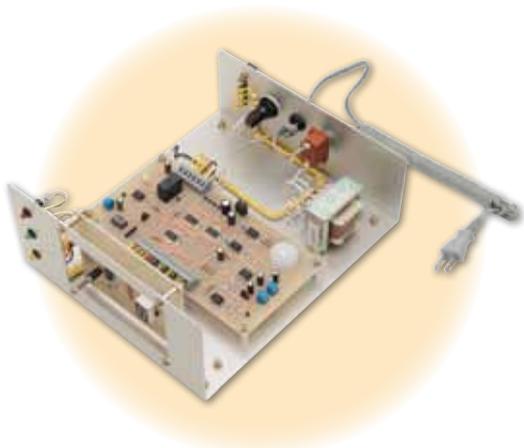


■ 参加選手数 7名

競技課題は、「省エネコントローラーの組立」です。現在、我々の身の回りに有る多くのものに電子機器が搭載され、各種の制御が行われています。このため、電子機器の組立技術は、その試作・改良といった製品開発には無くてはならないものです。今回の競技では、「省エネコントローラー」の組立を通じて、そのようなハイテク技術の一端を担っている電子機器の組立技術を競います。美しく信頼性のある機器を組み立てること、そしてそれが正しく動作することが求められます。また、近年は電子機器が小型化・軽量化される中で、使用される部品も小さくなっています。競技においても、3.2mm×1.6mmで厚さ0.6mmの部品が使われており、小さい部品を正確に取り扱う技術も求められます。

技
能
競
技

電
子
機
器
組
立



金賞受賞者の感想

吉田 圭佑 愛知県

初めてアビリンピック全国大会の電子機器組立種目に出場する事ができ、「金賞を取る」という目標をもって練習に励んできました。初めは上手い出来ない事が多く、焦りもあって苦戦しました。

特に「はんだ付けの出来栄え」「配線のフォーミングの見栄え」で減点をもらう事が多く、何度も挫けそうになりました。

はんだ付け作業は理想のフィレットやはんだ量を調整する事が難しく、納得のいく形にするためにどうしたら良いのかを考え、様々なやり方を試しました。

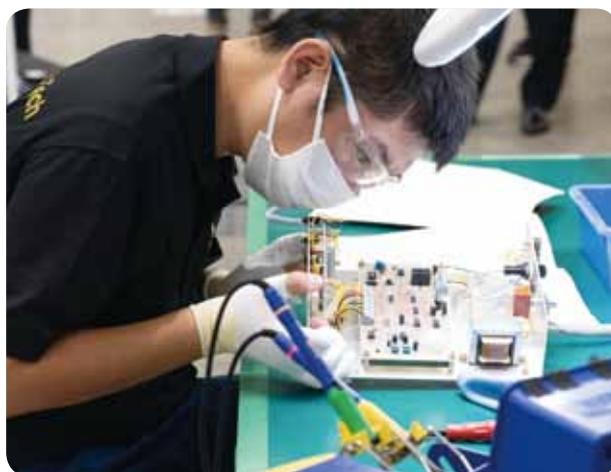
配線のフォーミングは何度やっても綺麗な形にならず、曲がったりして上手いきませんでした。

「はんだ付けの出来栄え」「配線のフォーミングの見栄え」二つを重点に試行錯誤を繰り返し、指導者のアドバイスと一緒に練習をした仲間と情報共有していき、納得のいくはんだ付け・フォーミングをすることが出来るようになりました。

大会当日はトラブルがあり、多少の焦りはありましたが、練習してきた事を思い出して冷静に落ち着いて対処する事で結果金賞を受賞する事が出来ました。

この結果は一人の力だけでは得られませんでした。共に切磋琢磨し合った仲間、指導者、応援してくれた職場の人たちや家族のおかげです。

この経験は自分の自信につながり、これから様々な事に挑戦していきます。本当にありがとうございました。



講評

主査 櫻井 光広

第41回大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、選手及び関係者のみの参加にて、東京ビッグサイトにおいて開催されました。電子機器組立競技には、例年に比べて少し少ない7名の選手が参加されました。無観客とマスク着用での競技という点を除けば、いつものとおり選手たちは緊張感のある雰囲気の中で競技に集中して、選手全員の方が最後まで諦めることなく、作業に取り組まれました。

競技課題は、前回大会の課題から大きな変更はなく、夜間の人の動きに反応する機器を制御する回路を組み上げることです。必要とされる技能レベルは、技能検定「2級 電子機器組立て」課題と同程度です。限られた競技時間で、正確に動作することを必須として、電子機器を美しく組み立てなければなりませんので、本競技において特に高い技能が求められる「はんだ付け」の技術はもちろんのこと、束線による配線技術、トラブルが生じた際の対処方法などのさまざまな知識と技能、経験が問われる競技となっています。

競技結果については、採点基準に基づき、厳正に審査をしました結果、金賞1名、銀賞1名、銅賞1名、努力賞1名の4名が入賞しました。ここ数年の大会と同様に金賞作品と銀賞作品の得点差は僅差ではあったのですが、金賞受賞作品は採点者を唖らせる完璧な作品ということが印象的でした。リペアも適切で、まったくミスのない作品に仕上げられており、仕様を満たす作品を作り出す技能・技術が非常に優れていることがわかる作品でした。大会に参加される選手の皆さまには、今大会の金賞受賞作品に象徴されるような、要求仕様を満たし、ミスのない作品を仕上げる技能・技術の習得に引き続き努めていただければと思います。

最後に、参加選手と選手を指導されている指導員の方々ならびに大会関係者、競技スタッフ、その他多くの皆様のご協力に心より感謝申し上げますとともに、参加された選手の皆さまの今後のご活躍を祈念いたします。



■ 参加選手数 3名

■ 協賛企業等

一般財団法人啓成会

JUKI JUKI販売株式会社

S 西武学園 西武学園医学技術専門学校

競技課題は、「下腿義足(PTB式:patellartendonbearing)ソケット」の製作です。『義肢』とは、疾病や事故などにより失った手や足の外観や機能を補完する人工の手・足のことをいい、特に手の代わりとなるものを「義手」、足の代わりとなるものを「義足」と言います。この義肢製作に当たっては、切断部分(「断端(だんたん)')と言います)の形状を正確に型採りし、解剖学的・人間学的知識を基に断端モデルを修正した後、修正されたモデル(陽性モデル)に合わせた正確な加工・組み立てを行うなど、様々な技術・技能が要求されます。今回の競技では、義肢の中でも特にそのフィッティングが難しい「ソケット」と呼ばれる部分を製作します。ソケット本体の加工法は、注型法と呼ばれるもので、この方法により繊維強化プラスチック製のソケットを作ります。





講評

主査 水澤 二郎

コロナ禍で開催された東京オリンピック・パラリンピック、そして東京アビリンピック2021。アビリンピックは選手及び関係者のみの参加による開催でしたが、メディア等を通じて多くの方が競技に熱中し、様々な喜びや感動を得られたのではないかと思います。パラリンピック競技のなかで、多くの選手が義肢(義手、義足)を使用しておりましたが、日常生活はもとより、こうした競技までも可能とさせているのが本課題の「ソケット」部分の適合や構造によるものです。生体と機械部分の接合部分としてのクッション性と実使用に耐えうる剛性を、いかに整合性の良い構造として実用的なものにするかは、機械加工のみに頼った方法だけでは難しいところであり、ハンドメイドにより達成できる場所も含まれております。

参加選手は3名と少数で、みなさん経験年数も余り長くはないのですが、事前にはっきりとした対策を講じてきた様子で、競技前日の下見においても、持参工具の確認、作業台の仕様及び使用機器類の調整、動作確認を入念に行っておりました。競技当日は、緊張の面持ちではありましたが、準備をしてきた自分を信じて熱心に競技に打ち込み、全員が無事に規定時間内に完成しました。義足のソケット製作が、いかに実使用に繋がるかを、寸法精度、出来栄え、作業態度、作業速度などの面から厳正に審査させていただいた結果、僅かながら金賞には届かず、銀賞2名、銅賞1名の結果となりました。僅かながらの部分は、今後のさらなる研鑽を積むことで埋められますが、何よりも参加選手の全員が、常に作業台上の整理・整頓をしながら進めていたことは大いに評価できることであり、ものづくりの基本として続けていただきたいところです。

最後になりましたが、選手の皆様をはじめ関係各所の皆様、コロナ禍における厳重なる対策・運営をしていただいた高齢・障害・求職者雇用支援機構、東京都の皆様により感謝申し上げます。



■ 参加選手数 3名

■ 協賛企業等

 株式会社ジーシー

 世界の歯科医療に貢献する 株式会社 松風

被せもの等の製作は、歯科医院で口の中を型採ったものに石膏を流して模型を製作し、その模型で歯科技工士が製作を行います。今回は顎の動きを再現させるための器具(咬合器)に装着された状態から競技がスタートします。上顎の被せものを製作するために処置が施された部分には、歯科用ワックスを盛り上げて歯の形を作ります。失われてしまった奥歯には、人工歯(歯の色、形に作られた既製品)を使って上の歯と咬み合うように調整します。前歯は、見た目や顔のイメージに大きく関係する部分なので特に慎重な作業が必要です。顎の動きを考慮して周囲の歯と馴染むような形態を作り上げます。奥歯は噛み合わせを考慮しながら前歯と同様に顎の動きを邪魔しない位置に人工歯を並べて調整する技術が必要となります。また、歯が抜けたことにより痩せてしまった歯茎を歯科用ワックスにて回復します。



 金賞受賞者の感想

中澤 昇一 東京都

今回のアビリンピックは初めて地元である東京での開催でしたので特別な感情もあり、金賞受賞したい気持ちが今までのアビリンピックよりも強く意識していました。

そして今までアビリンピックは数回出場しましたが、銀賞2個、銅賞2個となかなか金賞受賞出来ず、悔しい思いをしましたが、今回やっと念願の金賞受賞出来て、とてもうれしく思います。今回は今までのアビリンピック開催と違って、初めて12月開催となり、我々歯科技工士にとって年末は毎年多忙である為、調整は容易ではなかったのです。特に私のようなベテランは指名のケースもあってきつかったです。しかも練習は職場ではやりませんでした。何故なら明るさとか歯科技工の仕事の条件の合う環境での練習は全く意味がないからです。今までの競技会場はドーム型の中ですから、かなり暗かった経験があります。しかもとり目の私にとっては不利なので、家の暗い場所を選んで練習しました。そういう意味で目に慣れておけば、本番での障害にならないと思い、家での練習を選んだのです。そして寒さも考慮し、使用するワックスは性質上、寒い環境では割れやすいのです。その為、割れないよう練習するため、わざわざ暖房なしでやりました。しかし本番は暖房が効いて予想より暖かく、予想は外れたけどワックスの扱いのスピード倍増に役立ったのでプラスでした。本番では何回参加しても緊張感には相変わらずで雰囲気はのまれそうでしたが、自分との戦いに勝つことができ、これまでにない達成感がありました。

これから出場を目指す方へのメッセージですが、やはり歯科技工は経験の積み重ね、練習の積み重ね、知識の積み重ねが絶対不可欠ですので、職場での真摯な取り組みで心構えし、仕事を楽しむようにすることです。そうすれば結果は各々についてくると思いますので、金賞受賞出来るよう頑張ってください。私も今後の技術向上、後進の育成に頑張りたいと思います。



講評

主査 中坂 聖

歯科技工は3名の選手で行われました。今回も全員が国家資格である歯科技工士免許を取得しており、歯科技工を生業としている方々の競技となりました。

課題は、上顎9か所に処置が施された部位に歯科用ワックスを盛り上げて被せものの原型を製作します。下顎は連続して3本の歯を失った箇所人工歯(既製品)を排列し、歯科用ワックスを用いて歯肉の形態を回復させる内容でした。

前歯の形態は顔のイメージと直結することから審美性が求められ、残存している歯の形態やバランスを考慮する必要があります。臼歯は上下の咬み合わせが重要となり、咀嚼機能の良し悪しに関わるためしっかりとしたものが求められます。また、顎運動を阻害せず歯列全体を違和感なく造形して整える力も必須です。

今回の課題は比較的時間に余裕のある設定としました。その分、競技中の様子からも1か所毎に十分注力して製作されていたように感じ、完成品を通して随所にそれが表れていました。

歯科技工の仕事は、自分専用の技工機で個人の器具を扱いやすいように創意工夫して業務の効率化を図っています。器具に関しては使い慣れた物を持ち込んでいただきましたが、設備に関しては競技という事もあり簡易的な物になってしまいます。普段通りの実力が発揮しにくい状況でありながらも、臨機応変に対応されていたのが非常に印象的でした。今後の業務においても更に対応力、技術力を高めて良質な補綴物を提供し続けてほしいと思います。

最後になりましたが、今回も多くの方々のお力添えにより無事競技を行うことができました。参加選手、職場の方々のご理解やご支援、協賛協力いただいた各社、各団体および携わった皆様方に深く感謝申し上げます。



■ 参加選手数 39名

競技課題は和文文書と英文文書の作成です。ワープロソフトWord2019を使用し、作成見本と作業指示書を見ながら、文書の完成度を競います。Wordに用意されている各種機能(ページ設定、書式設定、作図、オブジェクトとグラフィック活用、表作成)を自由に使いこなせる技術が求められます。制限時間内に競技課題を完成させるためには、和文・英文ともにスピーディーで正確なタイピングスキルが必須です。また、挿入するオブジェクトについては、指定ページに収まるよう、行間やサイズを調整し、全体のバランスを整える必要があります。さらに、完成した課題はカラー印刷をするので、色や効果の設定も重要な要素であり、見栄えの良い作品に仕上げる技術も要求されます。



金賞受賞者の感想

大川 公佳 大阪府

地方大会・全国大会共に初出場の私が、入賞のみならず、まさか金賞を頂けるとは夢にも思いませんでした。最初は「よい経験になりそう」という直感ひとつでアビリンピックへの出場を決めましたが、大会に出場するからには、自分の実力を発揮できるようにきちんと練習を積み重ねたいと思い、地方大会・全国大会それぞれの2か月前から少しずつWordに触れるようにしていました。

練習を始めた頃は、Wordにどんな機能が搭載されているかさえ知らなかったもので、単なるワープロソフトだと思っていたWordがこんなにも豊富な機能を備えていることに驚きました。そして、そんな魅力的なWordも、使い手の知識・技能次第でその可能性を発揮するか否かが決まってくることに気づきました。これを知ることだけでも、アビリンピックに出場する意味があると思います。つまり、アビリンピックは、入賞を競うだけでなく、出場を通して自分の技能を研鑽することで、自分の可能性を開拓していくきっかけにもなりうるということです。

競技本番では、現役大学生ということもあり、英字課題でアドバンテージを得ることができたのではないかと考えています。「ワード・プロセッサ」は、とにかくタイピングスピードが求められるため、一朝一夕で入賞を狙えるものではありません。普段からパソコンに触れてタイピングする習慣を付けること、また、ミスのない正確なブラインドタッチを習得する必要があります。特に、ブラインドタッチができるようになると、パソコン作業の効率が格段に上がるのでお勧めです!

最後になりましたが、アビリンピック出場に際し、アドバイスをしてくれた友人、見守ってくれた家族、そして応援してくれた大学関係者の皆さん、ありがとうございました。



講評

主査 長沼 智美

ワードプロセッサ競技は、各都道府県の代表選手39名が参加して、開催されました。昨年から引き続き新型コロナウイルスの影響を受ける中、感染対策を行いながら、アビリンピック全国大会が開催され、無事に終了したことをうれしく思います。出場した選手の作品は、課題を忠実に再現した見栄えの良い文書が多く、全国大会に向けて日々鍛錬を続けてきたことが容易に想像できました。都道府県の代表として全国大会に出場した経験が、各選手の人生において大きな自信となり、新たな目標を設定するための機会となることを祈っています。

本年度はMicrosoft Word2019を使用して「和文競技」「英文競技」の2部構成で実施しました。和文競技では、80分の制限時間で、昨今話題のSDGsの取り組みを紹介する文書を作成しました。表・図形・画像などをバランスよく挿入するスキルや、段落の行間・段組み・インデントなどを使ってレイアウトを設定するスキルが求められました。英文競技では、60分の制限時間で、東京都の歴史を紹介する文書を作成しました。英文タイピングのスピードと文字書式・段落書式の文書編集スキルが求められました。大会の結果、金賞1名、銀賞1名、銅賞2名、努力賞1名が入賞されました。入賞者は、限られた時間の中で効率的に文書を作成し、バランスよく課題を仕上げておりました。様々な機能を熟知し、迷うことなく作業に集中できたことが、結果に結びついたのでと思います。

文書作成スキルはビジネスの場においては必須です。全国大会出場に向けて練習をする過程は決して無駄ではありません。次回大会も多くの方にご参加いただき、大会を盛り上げていただきたいと思います。

最後になりますが、大会の運営にご協力をいただきました関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。



■ 参加選手数 7名

競技課題は、「アビリンピック大学における入学試験システム」の作成です。データベースは今日の情報システムにおいて根幹となる重要な部分を占めています。今回の競技においてもこれまでと同様に、DFD※の読み方やデータ処理の流れを理解したうえで、Access2016を使用します。

※DFD(DataFlowDiagram)とは、いわゆるフローチャートと異なりデータの流を中心に図示したものです。



金賞受賞者の感想

小野田 勝之 愛知県

今までに何度かアビリンピックに参加させていただきましたが、今回初めて金賞に選ばれてとても嬉しく思っています。このような機会を与えていただき大変感謝しております。

初めて参加したのは、第36回山形大会の時でした。今回と同じくデータベース種目での参加でした。当時は、知識も乏しく初めての参加で緊張していました。課題を完成させるなんてとてもできませんでしたが、運も手伝って銅賞に選ばれ嬉しかったのを今でもよく覚えています。それからもっと技能を向上させたいと思い翌年以降も競技に参加するようになりました。

データベース種目は、少し難しそうなおイメージがありますが、触ってみると面白いところがたくさんあり、データのインプット、加工、アウトプットまでを上手に処理できると気持ちが良いです。表面上は簡単なタイトルやボタンで装飾していますが、後ろ側で複雑なデータ処理をしているあたりは玄人っぽさを感じさせます。処理がうまくできないとどこに問題があるのか探すのが大変で、見つけられないと悲しい思いをすることも…。

競技は3時間で行いますが余裕のある時間ではないので、タイピングのスピードを上げる訓練や、正確に打てるように繰り返し練習しました。また、操作画面を少し工夫してボタンやタイトルに統一感を出すことや、自然に操作ができるようにコメントで誘導するなど、操作する側のことを意識して画面を作成しました。プログラムは何の処理かわかるようにコメントを追加して、どこがうまく処理できていないかすぐに見つけられるように心掛けて作成しました。

難しいイメージを持たれがちなデータベース種目ですが、競技で使用したAccessを少し扱えると仕事で役立つことが多いので、アビリンピックを通じてデータベースに触れてみると良いきっかけになるのではと思います。



講評

主査 森田 良一

このデータベース競技は、事前に何度も繰り返し課題を制限時間内にクリアするという練習が必要な競技になります。

そのため事前公開する課題Aは、競技本番当日の課題Bとほぼ同じにしています。練習時間の長さや努力の成果が結果として表れるとともに、新たな発見もあることと思います。

データベース上のテーブルにデータを単純に書き込むだけでなく、データ内容によって数値を加工しながら更新するという処理が必要になります。また、ユーザーインターフェイスは利用者の操作感を意識し、デザインを工夫しながらフォームに整列されているかも審査のポイントとなります。CSVファイルからのデータ取り込みはテーブルの列数と同じでない課題もありますので、データ取り込みには、ひと工夫が必要になります。

データベース操作(SQL)の知識だけでなく、ACCESS内に用意されたマクロやプログラミング言語(VisualBasic)を記述する技術も必要となります。特にACCESSが自動的に表示するメッセージや印刷ダイアログを表示させないためにはVisualBasicの記述が重要なので参加する選手はより一層の勉強が必要です。

残念ながら今回は100点満点の選手はいませんでした。次回は是非100点満点の選手が出ることを期待しています。

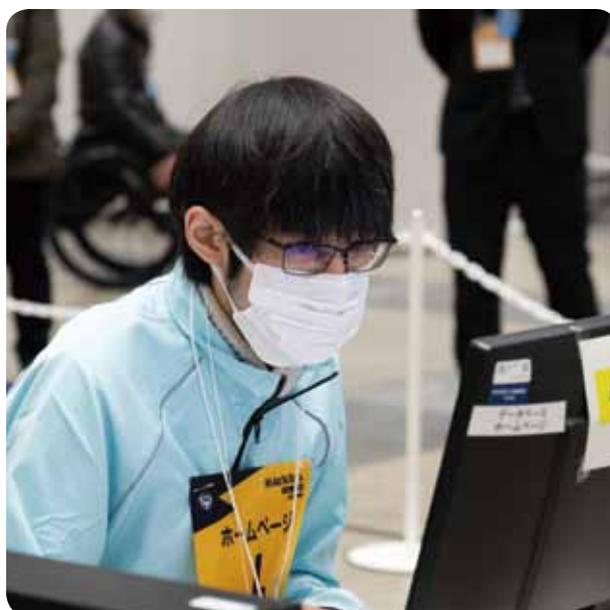


■ 参加選手数 9名

■ 協賛企業等



今回の競技課題は、選手の「所属先(都道府県)の特産品・名産品を紹介するホームページ作成」です。選手は観光先やお取り寄せ品を探す人が閲覧することを想定し、「タブレット、スマホでも閲覧できるホームページにして欲しい」「写真などを多用して特産品、名産品の魅力を紹介したい」等の要件に沿ったサンプル等を制作し、事前に提出しています。競技当日は、提出した事前課題に対して、当日課題で提示された新たな仕様に従ってホームページ制作を行います。選手は、その内容を正しく理解し、これまでに培ってきた技術を最大限に生かして制作しなければなりません。





講評

主査 加藤 貴一

第41回大会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、選手及び関係者のみの参加、動画配信での開催となりました。競技者の皆様におかれましては、このような状況の中でも、事前課題を滞りなく制作され、競技に対するひたむきな努力を伺い知ることが出来ました。

今年の競技課題は、競技者の所属先(都道府県)の特産品、名産品を紹介するホームページ制作及びランディングページ制作をテーマとした課題を設定しました。課題を通じて、ホームページ制作に関する総合的な技量・成果を期待しておりましたが、残念ながら金賞作品はありませんでした。

今後、競技に参加される皆様にお伝えしたいこととして、制作ツール、WEBサービスなどの利用により、ホームページ制作自体は、以前に比べ比較的簡単に制作できるようになりました。だからこそ、ホームページ競技で重要視したい事は、利用者を想定し、わかりやすく、適切な情報提供がされているかということになります。

そのためには、情報設計、デザイン、文章構成力、制作技術など幅広い知識・技能が求められます。日々のチャレンジの中で職務遂行に必要な能力を習得・向上して頂き、是非とも競技に挑戦していただきたいと思います。

最後になりますが、今年も多く皆様のご協力により無事に競技を終了することができました。選手の皆様、東京都関係者、ボランティアの皆様、協力・協賛企業の皆様、大会事務局の方々には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。



■ 参加選手数 8名

競技は次の3課題によって行われます。

競技課題①「花束」の作成

花束の形はラウンド(上から見て円形)で、大きさは直径40cm(±2cm以内)、高さは結束部(結んだ部分)から25cm(±2cm以内)、ステム(結束部から下の部分)は14cm(±1cm以内)で、完成した作品は花瓶に入れます。

競技課題②「花嫁の花束」

花嫁が持つブーケを作製します。形はキャスケード(自然に流れ落ちる感じ)、全体の長さは55cm(±2cm以内)、幅は28cm(±2cm)、持つ部分にはリボンを付けます。

競技課題③「食卓テーブル装飾」

食卓のテーブルに飾る花飾りの作製です。形は水平オーバー、幅は75cm(±2cm以内)、奥行きは30cm(±2cm以内)、高さは17cm(±2cm以内)です。



金賞受賞者の感想

川上 初美 埼玉県

全国アビリンピックは初めての出場となりましたが、金賞という素晴らしい賞を頂けたこととても嬉しく思っています。

出場するにあたり、競技課題が3パターンあること、時間内に仕上げるなど私にとって高いハードルでした。最初は、課題の寸法通り作成し時間内に仕上げるのがなかなかできず、何度も練習を繰り返しました。大会の約2週間前に何とか仕上げられるようになった時、やっと自信が出来たような気がしました。また、大会参加を通じてフラワーアレンジメントの奥深さも更に実感しました。練習不足な面もありましたが、当日は手順通りに作成することだけを考えて挑み、自分でも不思議なくらい落ち着いて出来たことが結果に繋がったような気がしています。

大会に参加し、アビリンピックという、障害者の方がこんなにたくさんの競技で上位を競い合うことが出来る環境があることに驚き、とても感慨深い気持ちになりました。

障害者のスポーツ(パラリンピック)は今年日本で多くの人に知ってもらうことが出来たと思いますが、技能大会はまだ認知度が低いように感じます。私自身も今回選手として出場しましたが、たくさんの競技があることも知りませんでしたし他の競技も見学したいと思いました。日本の技術はとても素晴らしいと思っています。障害のある方がいろいろな競技の技能を取得出来ることを多くの方に知って欲しいと強く思いました。

今回の出場に際し推薦して下さった先生、私を応援し支えてくれたすべての方に心から感謝いたします。今回はとても大きなステップになりました。更に上達できるよう努力しもっと大きな目標に向かって挑戦していきたいと思っています。



講評

主査 立川 瞳

第41回全国障害者技能競技大会を開催することができ、無事に終了することができましたこと、皆様大変お疲れ様でした。関係各所の皆様のご努力、ご協力にお礼申し上げます。

今年は開催時期が12月中旬でクリスマスシーズンにあたり、フラワーアレンジメント競技では例年とは異なる季節感を重視した花材の選択をしました。搬入時に心配していた花材の色や種類もイメージに近く、選手がどのように表現し作品を完成させるのかとても楽しみでした。種類ごとに花材が包装された包みを点検して、選手に平等に配布されるよう競技委員全員でチェックをして、大会前日の選手オリエンテーションを迎えました。

オリエンテーションでは約1時間、皆さん多くの質問を準備してきており、お一人お一人お答えしました。皆さん少しずつ安心された様子に感じ、また質問された選手は熱心に競技に臨まれている姿勢を感じました。

いよいよ大会当日。時間通りに競技を開始しました。第1課題花束60分、全員が作品を完成させ、短い休憩を入れながら第2課題の花嫁の花束、第3課題の食卓テーブル装飾と進み、時間通りに選手全員が作品を完成させました。一人として同じ配色の作品はなく、楽しく審査をいたしました。

競技終了後の講評では、公開されている課題の作図等をしっかり理解し、大切な基本を守り、花材、特に花は一つとして同じ大きさやお顔はないので、よく見極めて表現されると全体のバランスが更に良くなることなどをお伝えしました。

選手の皆さんが練習を重ねられた結果、今回の大会では素晴らしい作品を見せていただきました。

■ 参加選手数 2名

■ 協賛企業等

DENSO 株式会社デンソーウェーブ
DENSO WAVE

 国立大学法人名古屋工業大学

競技時間以内に、ロボットの動きを指示するプログラムを作成し、動きの指示のしやすさや、実際にロボットを動かした際の正確さや速さを競います。使用するプログラミング言語に習熟し、良いプログラムを作成する能力が試されることはもちろん、課題をどのように解決するかという構想の立て方や作業の進捗管理能力、ロボット実機の持つ特性や動作環境をどのようにプログラムに反映させるかという現場への配慮等、問題の分析からシステムの設計、テストに至るシステムエンジニアとしての総合的な技量が求められます。

技能競技
コンピュータプログラミング





講評

主査 水野 直樹

コンピュータプログラミング種目は、競技課題が情報の処理にとどまらず、ロボットアームを介して実世界に直接働きかけるといった特徴を持った種目です。このような特徴を持つ種目に、今回の競技大会ではこれまでに参加経験のある2名の方に参加頂きました。

このうち1名の方は過去に受賞歴のある方、もう1名の方は他のコンピュータ関連種目で金賞を受賞された方で、レベルの高い競技が期待されました。

大会の全体の運営では、2年前から導入した小型ロボットアームと専用プログラミング言語により3Dペンで一部立体の作品を作成する競技内容を継承し、協賛企業協力員の方の助力も相まって、コロナウイルス感染防止を考慮した競技の準備、実施を順調に行う事が出来ました。なお、より多くの選手に参加頂けることを期待して声掛けを致しましたが、コロナ感染を危惧し、辞退された選手がいらっしまったことは残念に思います。

当日課題の設定は、参加選手の技能を比較するのにふさわしい難易度になるように行いました。当日の競技は午前3時間、午後3時間の計6時間でプログラミング、ロボットを用いた3D作品の描画とドキュメント作成をする総合的な課題に挑戦頂くものでした。課題図形としては、ベイエリアにある競技会場を考慮して、ゆりかもめをイラスト化したものを提示しました。競技はコロナ禍により選手及び関係者のみの参加による開催でしたが、大過なく進行しました。

次回の千葉大会に向け、ロボットによる課題をさらに検討し、競技をより魅力的なものにする予定です。なお、今回はコロナ禍のため個別講評が行われませんでした。大会の一部として今後の実施方法が検討されることを期待しています。



■ 参加選手数 43名

■ 協賛企業等



一般社団法人
神奈川県ビルメンテナンス協会



公益社団法人
全国ビルメンテナンス協会



公益社団法人
東京ビルメンテナンス協会

競技課題は、クリーニングの基本作業である「弾性床材清掃及び机上の清掃」です。会場に設けられた16㎡(4m×4m)の模擬事務所において、あいさつからゴミ箱の処理、床面の掃き・拭き、机上拭きなど、ビルクリーニング業で行われる基本作業を行い、作業の効率性、資機材の取扱い、清掃の正確性を競います。



金賞受賞者の感想

木村 優基 東京都

私は第41回アビリンピック全国大会のビルクリーニング種目で、金賞を受賞することができました。私の通学している都立港特別支援学校では、2年生の代表が都大会に挑戦し、勝てば3年生のときに全国大会に挑戦する流れができています。私の1つ上の先輩は、都大会で普段しないようなミスをして金賞を獲ることができず、悔しい思いをしていました。その先輩の思いを受け継ぎ、先輩にしっかりアドバイスをしてもらって都大会に出場し、金賞を獲ることができ、晴れて全国大会へ出場できることになりました。

全国大会に向けては2学期に入ってから週2回の授業で練習を積み重ねてきました。時間が短いので集中して練習するように心がけてきました。先生にアドバイスを受けたところをしっかりと修正し、より美しく見えるように、よりしっかり清掃しているように見えるようにと、部分練習と通し練習をひたすら繰り返しました。丁寧にやろうと意識すると動作が遅くなってしまい、動きのキレが悪くなってしまふところに苦しみましたが、最後の1週間で納得のいく動きができるようになりました。本番では今までやってきた練習を信じて、落ち着いて力を発揮することができ、金賞受賞が分かったときはめちゃくちゃ嬉しかったです。これから全国大会を目指す皆さんも、練習してきたことを信じて力を発揮すれば、きっと良い結果が得られると思います。頑張ってください。



講評

主査 北山 克己

新型コロナの感染状況が若干収まっている中で開催されたビルクリーニング競技は、全国42都道府県43名の代表選手を迎え安全を十分に確保した環境の中で開催されました。

選手及び関係者のみでの開催となりましたが、競技を競う16㎡のコートを中心とした競技エリアは例年の様に選手たちの熱い熱気に包まれていたように感じました。また、その模様はWeb配信という形で全国に配信されており、会場に応援に来ていただくことができなかった全選手の関係者の皆様にも、その臨場感あふれる競技会場の模様は伝わったのではないかと満足しております。

さて、この競技は「作業準備」「作業動作」「競技仕様」「作業態度」「作業時間」の5面から採点しており、これら全てが成立して建築物の衛生的な環境の提供に寄与していると考えています。清掃実務で最も大切なマナーや生産性は、競技の「作業態度」「作業時間」に置き換えることができ、適切な資機材の使用と効率的な作業動線、或いは作業成果に勝るとも劣らないマナー「作業態度」は顧客満足に直結していることを勘案し総合的に評価させていただきました。その結果、今年の傾向としては上位入賞者の採点に大きな開きはなく、作業技術の向上が図られていると考え、金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、そして努力賞1名を選出させていただきました。惜しくも入賞を逃した各選手の皆様は、今抱えている課題を乗り越えて来年の全国大会に臨んでいただきたいと思います。尚、全体的に共通していることは、作業時間を追うあまり作業成果に影響が出ていると思料されますので、選手の技量の向上に更に努めていただきますようお願い申し上げます。

最後に、この競技運営に多大なご尽力を頂いた、高齢・障害・求職者支援機構職員や東京都職員並びに競技委員及び補佐員の皆様、そして資機材貸与に関してご協力を頂いた神奈川県ビルメンテナンス協会並びに東京ビルメンテナンス協会に対しまして心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



■ 参加選手数 21名

■ 協賛企業等

定 株式会社 丸定

もりかみ協議会

競技課題は、商品を梱包するための箱や緩衝材の組み立てと、それぞれの組み込みです。今回の競技では、段ボールでできている小箱、中箱、化粧箱、そして2種類の緩衝材を組み立て、それらを一番大きな外箱に組み込んだものを4箱作ります。競技課題① 緩衝材の組立・結束【25セット(5束)】

異なる2種類の緩衝材をそれぞれ5個ずつ組み立て、紐で結束します。緩衝材の出来栄だけでなく、結束する際の紐の位置や強さ、緩衝材の並べ方や向き、結束方法などがポイントになります。

競技課題② 小箱・中箱・化粧箱・外箱の組立・セットアップ梱包【4梱包(4箱)】

商品を使用して、実際の梱包作業を行います。小箱・中箱・化粧箱を組み立て、外箱に緩衝材を組み込んで化粧箱を固定します。お客様に届ける最後の工程となるため、見栄えと決められた製品がセットされているかが重要なポイントとなります。



金賞受賞者の感想

宍戸 彩葉 宮城県

学校行事以外で、大会というものに出たことがなかったので、アビリンピックが私にとって初めての大会出場です。初出場で金賞なんて夢のようで、なかなか実感が湧きませんでした。

私が大会に出てみようと思ったのは、金賞を受賞した職場の仲間の動画をみたからです。私もあんなふうにしてみたいと思うようになりました。でも、練習を始めてみると、紐も結べないし、うまく折れないし、時間もかかるし、全然動画のようにできなかったの、すぐに自信がなくなりました。「やっぱり大会に出ません」と職場で話したら、「最初からうまくできたら、つまらないよ」、「自分も最初は紐を結べなかったし、大丈夫」と笑ってくれたので少し安心しました。

練習をしていくうちに少しずつ、できなかったことができるようになりました。昨日まで上手くできなかったことが、当たり前になるようになる度にうれしい気持ちが増えて、練習が楽しくなりました。

練習で分かったことは、焦ってもいいことがないということです。時間を気にして焦るほど失敗が多くなったからです。それから、お客様が欲しいものは中の商品だとしても、入っている箱がつぶれていたり、しわが寄っていたら、少し残念です。箱を手にするお客様の気持ちを考えながら、きれいな箱を折るように心がけました。

大会本番は緊張しましたが、焦ることなく、練習してきたことを全て出すことができました。簡単にあきらめなくて本当に良かったです。そして、全国大会では、練習してできるようになった自分の姿を見せることができうれしかったです。

応援してくれた皆さん、本当にありがとうございました。



講評

主査 鈴木 陽一

製品パッキング競技は、様々な業種の最終工程を担う梱包作業を“速さ”と“品質”で競う競技です。今大会で10回目を迎え、現在の材料を使った課題としては6回目の競技開催となりました。コロナ禍で練習環境が整わない中、各選手と指導にあたった関係者の努力で前大会以上のレベルの向上がみられた事に敬意を表したいと思います。

今大会では特に“速さ”の部分でレベルの向上がみられました。時間短縮を図るためには正味作業の“折る”“縛る”“テープを貼る”などの作業を単に早くするだけでなく、それに繋がる付帯作業を如何にコンパクトにするかが重要です。各選手がこの内容を理解しているかが段取りにあたる競技前準備に表れていました。材料や治工具のレイアウトで人の動作や作成する流れが決まります。この内容を理解し各選手がレイアウトを重視する事が結果として“速さ”のレベル向上に繋がったと思います。その一方で毎回課題となる“品質”ですが、課題1では一部の選手に紐の緩みがあったものの過去にあるような極端な緩みのものが少なくポイントを押さえれば直ぐに解決できるレベルにあります。課題2では今回も目立ったのが「シワ」です。特に化粧箱 身蓋、中箱の3つにシワが集中していました。早さも大事ですが、シワが発生しやすい箇所や作業などポイントを絞り改善していく必要があります。そのためには、正しいやりかたをするより自分にあったやりかたを見いだす事が一番の近道です。選手を指導する方は選手の特徴を捉えそれに合ったやりかたを選手と共に見いだしてください。

最後に、コロナ禍で練習環境が整わない中、頑張って競技に臨まれた選手、ならびに支援者の方々、大変お疲れ様でした。そして大会関係者のみなさまをはじめ、多くのスタッフのおかげで無事に競技を終える事ができました。心より感謝申し上げます。

参加された選手の方々の競技に挑む姿勢や高い技能、そして何より選手一人ひとりの頑張っている姿が私達専門委員だけでなく大勢の見ている人に感動を与えました。皆様の今後の活躍をご祈念いたします。



■ 参加選手数 39名

■ 協賛企業等

 UCCグループ
日本パーソナルセンター株式会社

 UCC
Good Coffee Smile UCCコーヒープrofessional
株式会社

競技課題は、会場に設けられた模擬喫茶店で、来店されたお客様に対して接客サービスを提供するものです。参加選手は4~5人のグループに分かれ、それぞれのグループごとに接客サービスを行います。接客サービスは、1グループにつき2回以上実施することとし、「喫茶サービスの流れ」※に従い、他の従業員（選手や厨房スタッフなど）と連携・協力しながら行います。

※喫茶サービスの流れ

- ①お客様を席に案内する。②お客様から注文を受ける。
- ③受けた注文を調理担当者に伝える。④注文に応じて必要な物を準備する。
- ⑤注文の品をお客様に出す。⑥テーブルの後片づけをする。



金賞受賞者の感想

白石 胡桃 茨城県

私は、もともと接客に興味があり、学校の職業の授業で喫茶サービスの勉強を始めました。昨年度の県大会では思うような結果が出せず、悔しい思いをしました。『あんな思いはしたくない』という気持ちで、学校でも家でも練習を重ねてきました。今年度の県大会は緊張感のある中でも、「楽しんでおいで」という先生の言葉に背中を押され、いつもどおりの接客を楽しんで行いました。全国大会に進むことができ、あきらめなくて良かった、と思いました。

全国レベルの大会は人生初でしたので、不安の中、練習を始めましたが、沢山の学校の先生方や社会人講師の先生に熱心にご指導いただき、心強かったです。緊張したり焦ってしまったりで失敗するばかりでしたが、優勝目指して毎日練習を積み重ねました。

そして迎えた全国大会当日、緊張する私に先生や友達の応援が勇気をくれました。

実際の競技では、提供の際には緊張や焦りもありましたが、自分なりに落ち着いて接客することを心がけました。何より、お客様に気持ちよく過ごしていただけるよう、精一杯の笑顔で接客することができたことが良かったです。また、周りの様子にも気を配り、同じチームの方達に声をかけました。緊張感がある中でも、楽しんで競技ができました。

そして、結果として金賞を受賞することができました。受賞を聞いた時は今までのことを思い出して思わず涙が出てしまいました。本当に嬉しかったです。

このような結果を出すことができたのも、諸先生方や、社会人講師の先生、応援してくれた友達や家族など支えて下さった皆様のおかげです。感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりますが、これから出場される方には、お客様に思いやりのある接客をすることを一番大切にしてほしいです。とにかく笑顔を忘れず、楽しんで頑張ってください。



講評

主査 小松 邦明

今年度も引き続き新型コロナウイルスの感染が拡大するなかで、選手のみなさんが十分な体調管理をして、ご家族や所属団体、法人のみなさんと大会参加に向けて準備していただいたことに感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。お疲れ様でした。

「喫茶サービス」は、お客様や選手、スタッフ同士の距離が近くなり、他の競技以上に感染拡大防止対策を考える必要があります。使用する道具や環境の一部の変更などに関わらず、選手のみなさんは感染防止対策を守り、臨機応変に対応することができていました。

この競技には、①サービスの仕方を理解して、正確に、スムーズに提供すること、②お客様に気持ちよく過ごしていただくこと、③選手やスタッフと協力すること、の3つのポイントがあります。上記①については、ほとんどの選手ができていましたが、②や③については選手によって差がありました。サービスの基本の流れを理解するだけでなく、お店全体に気を配り、他の従業員（選手）と協力して必要な業務を行うことが、お客様の満足につながるはずで。この観点からもう一度自分の競技を振り返ってみてください。このように相手の立場に立って考えることは、「喫茶サービス」という競技の中だけでなく、日頃の仕事などでもよい結果につながるはずで。

また、自分の「能力や適性」「喫茶サービスをする理由」についても、今一度振り返ってみることをお勧めします。「自分はお客様や他の選手に対してどんな点を大事にして、どんなサービスを提供したいのか」「そのために自分の能力や適性をどう活かすとよいのか」を整理したり考えたりすることで、きっと言葉かけや行動に変化が現れると思います。

最後になりましたが、この競技を実施するにあたり、新型コロナウイルス感染拡大防止対策など大会スタッフのみなさまをはじめ多くの関係者の方々にご協力いただきました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



■ 参加選手数 34名

競技課題は、「書類等の準備・封入」と、「社内便の仕分け」です。「書類等の準備・封入」は、企業が配布する書類の準備や発送する書類の封入を想定したもので、「クリアファイルへの書類挿入」、「同梱CDの準備」、「送付書類のピックアップ」、「宛名ラベル貼り」、「封入・封かん」等を行います。宛名の間違いなどが無いことはもちろん、細部にまで入念に意識された作業や効率よく作業を行うための工夫など、精度の高い手作業と効率化された作業工程が求められます。キレイに封入された封筒が送られてくれば、それだけで気持ちが良いものですから、会社の印象を良くすることにもつながる、大切な技能です。また、「社内便の仕分け」は、オフィスに送られてきた様々な封筒を、その宛名を見ながら、部署ごとに仕分ける作業です。30部署ある中から正確かつ瞬時に仕分けていくためには、研ぎ澄まされた集中力や注意力が求められます。



金賞受賞者の感想

井門 明日香 愛媛県

愛媛新聞社に入社して1年ほどたった2年前、どうしてもアビリンピックに出場したかった私は「愛媛新聞社の従業員として出場させてください。絶対に全国で結果を残します!」と当時の上司にお願いしました。地方大会を勝ち抜き、3回目の全国大会。2年前は一つのミスで入賞を逃し、昨年は競技中にパニックになって泣き崩れどうやって競技を終わらせたのか記憶がありません。今年はいこれまでの反省と昨年から同行していただいている上司の助言を元に全てを終わらせることにこだわらず、自分の特性にあった作業手順を考え、今までで一番ゆとりを持って競技を終えることが出来ました。結果発表で銅賞、銀賞と名前がなく「今年もダメだったんだ」と思った矢先、金賞で自分の名前が呼ばれ、とても驚きました。これを書いている今でも夢なんじゃないかと思っています。

職場での理解や支援があったからこそ技術を磨くことができたんだと思います。大会に同行し助言をくれた上司、応援してくれた職場の方々。関係者の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

昨年に引き続き夫婦共に選手として出場しています。今年は10月に長男を出産し家族3人で挑んだ全国大会でした。来年からは別の競技に挑戦し、いつか夫婦揃って国際大会に出場できるようにこれからも切磋琢磨して頑張っていきたいと思っています。



講評

主査 成田 賢司

世界に感動と興奮を届けた東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に続き、東京ビッグサイトを会場に第41回全国障害者技能競技大会(全国アビリンピック)が開催されました。オフィスアシスタント競技では、全国から34名の代表選手が参加し、日頃磨き上げてきた技能が競い合われました。

今大会から課題1の内容を変更し、配布書類の準備と発送書類の封入の二つの作業を行う課題としました。書類のピックアップ、三つ折り、封入など基本的な作業要素を残しつつ、ポケットティッシュやCDなど書類以外の使用物が加わったことで作業工程が複雑になり難易度の高い課題となりました。課題2の社内便の仕分けでは、宛名の部署名から仕分ける課題とし、部署数、作業枚数が増えたことで判断力、作業速度が問われる課題となりました。

課題1では、作業工程の複雑さに加え作業量の多さから多くの選手が苦戦し、焦りや確認不足によるミスが見受けられました。そうした中でも落ち着いて作業に取り組む冷静さや状況に合わせた対応力などがポイントになったと思います。課題2では、半数近い選手が作業を終えていたため、仕分けの正確さが順位に大きな影響を与えました。

競技結果は、金賞1名、銀賞2名、銅賞3名となりました。精度、速度ともに高い技能を身につけた選手が多く、僅差での結果となりました。選手のみならず、大変お疲れ様でした。アビリンピックに向けて培ってきた技能や大会での経験を活かし今後も益々活躍されることを祈念しております。

最後に、オフィスアシスタント競技は、出場選手、選手支援者、大会関係者をはじめ、多くの方々のお力添えを頂き無事に終える事ができました。心より感謝申し上げます。



■ 参加選手数 33名

競技課題は、「表の装飾・編集」、「関数式による表の完成」、「データ処理」及び「グラフ作成」です。「MicrosoftOfficeProfessional2016」の表計算ソフトである「Excel2016」を使用し、その三大機能である「表計算機能」、「簡易データベース機能」及び「グラフ作成機能」の総合的なスキルを競います。各課題は、あらかじめブックに用意されているので、選手はそれを使用し、各課題の設定に従って表やグラフの作成、集計などを行います。なお、課題作成の順番は特に指定していないので、各自が取り組みやすい課題から行っても良いこととしています。



金賞受賞者の感想

米田 涼子 福岡県

「金賞は、福岡県…」という声が聞こえてきた瞬間、思わずガッツポーズ!

その後表示された自分の名前を見て、本当に私なんだという実感が湧いてきました。

第36回山形大会のデータベース部門に続き2個目の金メダルを目標にしてきました。第37回栃木大会で銀、第39回愛知大会で銅と悔しい思いをしたため、全国大会への出場が決まって自分に何が足りないのか考え色々な種類のグラフを作成したり、普段の業務ではあまり使わない関数については、まず、基本の使い方を調べて、どのような場合に使用するか考えたり、今の自分に出来ることを精いっぱいしたりしました。心が折れそうになった時は、ガイドブックに載っているメダルの写真を見て成績発表の光景を想像し、モチベーションをアップして挑みました。

本番では、課題2の関数に苦戦しました。基本の使い方は分かっているけど、結果を導き出す関数はどれか、またどの関数を組み合わせるのか閃いて、入力・結果を確認する繰り返しです。緊張と焦りの中で時間も限られているため、なかなか思った通りの結果が出ずに諦めそうになりました。関数ばかりに時間をとられ、最後の見直しをする時間をとれなかったため、閉会式までの2日間は競技中の自分のダメな部分ばかりが思い出され、気持ちが落ち着きませんでした。

特に、関数は回を追う毎に、同じ関数を使用するにも複雑になっていると感じます。出場者のレベルが拮抗しているからではないかと思えます。その中で、最高の結果を出すことが出来て本当にうれしいです。

最後に、今回受賞できたのも快く送り出してくださる会社、支えてくれる家族や友人、アビリンピックに関わる全ての方々のおかげだと思えます。本当にありがとうございました。この結果に満足せず、日々努力してまいります。



講評

主査 佐藤 京子

昨年に続き、新型コロナウイルスの影響により、十分な練習時間を確保することが難しいケースもあったかと思いますが、そのような状況下において、今年は33名の選手が参加され、皆さんの努力の結果により、回を重ねるごとにレベルも高くなっていると感じます。

表計算競技は、課題1(装飾編集)、課題2(関数式による表の完成)、課題3(データ処理)、課題4(グラフ作成)の4課題で構成されています。これまでの全国大会同様、多くの選手が課題2と課題4で苦戦されていたようです。特に、課題2の関数の設定に手間取ってしまい、他の課題に十分な時間を割くことができなかつたり、気持ちに余裕を持たず、本来の実力を十分に発揮することができなかつた選手も見受けられました。

課題2では、どのような関数を用いるのが適切か、どの順番で引数を設定するかなどを、指示文からの的確に読み取り、それを判断することが重要なスキルとなります。また、課題4では、目的のグラフを完成させるためには、どの範囲のデータをどのような順番で指定していくかがポイントとなります。つまり、表作成・関数設定・データ処理・グラフ作成については、操作テクニックも大事ですが、適切な結果を得るためには、どのような考え方で、どのような操作手順で行うかの判断が重要になってきます。このようなことを意識し、最終形をイメージしながら、日々トレーニングを行うとよいでしょう。また、表計算の知識やスキルも重要ですが、設問を的確に把握することや、指示文の見落としをしないことも、基本的な重要なスキルと言えると思います。

末筆となりましたが、コロナ禍の状況においても、無事終了できましたことは、大会スタッフの方々をはじめ多くの関係者の方々のご尽力の賜物と、深く感謝致しております。また、昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響で、残念な思いや辛い思いをされた選手の皆さんの、そのような「思い」が、次のチャンスにつながることを祈念致しております。



■ 参加選手数 5名

競技は次の2課題によって行われます。

課題① ベーシックマニキュア

爪の長さ、形、表面を整え、キューティクルのお手入れをし、カラーを塗ることで美しく健康な爪をつくります。健康で美しい爪と指を保つためのマニキュアサービスの基本となるネイルケアの技術とカラーリングの施術の正確さ、繊細な技術力と仕上がりの美しさを競います。

課題② ネイルチップアート

ネイルアートの基本的なテクニックを用い、自分で選んだテーマに沿ってネイルチップに独創的で華やかなアートを施します。



金賞受賞者の感想

荒山 美夢 千葉県

私がネイルを始めたきっかけは、学生時代に興味があり先生方が個に合わせた課題の内容で取り入れてくださったことでした。当時は細かい部分は気にせず作品を作っていましたが、とても楽しく充実した時間でした。この出来事があった将来の目標となり自分の気持ちを大きく後押ししてくれたと感じています。お世話になった先生に大変感謝しております。

アビリンピックを知ったのは20歳の時でした。今回の大会はネイル施術がデモンストレーションの年も含めて4回目になりますが、金賞を頂けてとても嬉しかったです。

練習で気をつけたことは、ネイルケアの爪の表面、甘皮周りのガーゼの拭き取り方とキューティクルニッパーをあてる角度です。

アートは立体感と細い線を意識し、今年のアートのテーマが自由だったこともあり、私は好きな「和の世界観」を表現しました。特にこだわったのは鶴のアートです。しなやかな体の形と羽の向きや配色は何度も練習し、本番では生き生きとした鶴をネイルチップに羽ばたかせることができました。この2点に力を注ぎ大会に挑みました。

これからも技術向上を目指し、勉強に励みたいです。

最後になりますが、どんな時も応援してくれた家族、ご指導頂きました方々、職場の皆様、本当にありがとうございました。



講評

主査 木村 安気子

ネイル施術の競技は昨年同様、ベーシックマニキュア(お手入れとカラーリング)とネイルチップアートの二つの課題で実施しました。コロナ禍でソーシャルディスタンスを取り、選手及び関係者のみの参加による開催で、5名の選手が競い合いました。

前半30分のお手入れは、手指消毒から爪の長さ形と表面を整え甘皮処理を行いました。後半15分のカラーリングは両手に赤マツを施しました。基本スキルの高さや正確さ、サロンワークとしてお客様に満足いただけるかを評価のポイントとしました。ファイリングやルーススキンの処理、カラーリングのはみ出しや塗り残しなどが明暗を分けましたが、ベーシックマニキュアに関しては大きな差異が無かったと言えるでしょう。緊張とプレッシャーがある中で丁寧な施術ができていたと思います。

今大会は、ネイルチップアートのテーマを自由とし、テーマの説明文を添えてもらいました。競技時間は70分。作品がテーマや作文内容と合致しているか、アートの統一性や色合い、ブラシワークや全体のバランス、独創的で華やかな仕上がりなどを評価の対象としました。高得点を得た選手は、テーマと合致し、色彩バランスと繊細なブラシワークテクニクに優れていました。基本的な部分はできていても、最終的な仕上げに違いが出たように思います。

競技の時間管理、作業段取りが良くできた選手は日頃の鍛錬とサロンワークを意識したレベルの高さを感じました。総合的に見て、お手入れとカラーリングはレベルアップしたと思いますが、ネイルチップアートはテーマを自由としたので比較しにくく、テーマとの合致が明暗を分けたように思いました。いつもながら選手の競技に取り組む真摯な姿勢がとても印象的でした。今後も益々の活躍を祈念しております。

最後になりましたが、多くの方々のお力添えがあり無事に競技を終了することができましたこと、参加選手をはじめ、ネイル施術モデル、関係各所の皆様方に心より感謝申し上げます。



■ 参加選手数 13名

■ 協賛企業等



キヤノンマーケティングジャパン株式会社

東京ビッグサイトで開催されるアビリンピック2021をパンフレットやホームページ上で紹介することを想定し、同大会の様様や大会会場風景を魅力的に撮影します。これにより、写真撮影における基本的な技術や総合的な構成力等を競います。

<具体的な撮影対象>

- ・東京ビッグサイト内外観(必須)
- ・技能デモンストレーション競技(競技名:OA機器等メンテナンス)の競技風景(必須)
- ・その他、エントランス、インフォメーション、カフェ、ショップ、造形物など



金賞受賞者の感想

荒平 楓 鹿児島県

私は、全国アビリンピック大会に昨年に引き続き2回目の出場でした。今年こそ金賞を受賞したいという思いがありました。

東京へ向かった大会前日、自分のカメラで練習をしました。しかし、その日は自分が思うような写真が一枚も撮れませんでした。明日本番なのにどうしようと焦りと不安な気持ちでいっぱいでした。

本番当日、朝早くに会場へ向かいました。東京ビッグサイトの大きさ・広さに圧倒されました。そこで、東京ビッグサイトを練習で撮ってみました。少し落ち着きました。いよいよ競技開始です。しかし、今大会では、エリアが決められている上に、写してはいけないロゴもあり、かなり大変でした。それでも私はあきらめませんでした。何度も何度も同じ場所で撮り、ロゴが移らないように角度を考えながら撮影を続けました。それから今年も、人間の表情も撮らないといけません。これまでの練習で、学校の友達がいつも協力しているいろいろな表情を提供してくれたので、撮影には自信がありました。当日も、会場内の人の自然な表情をたくさん撮ることができました。しかし、撮るだけではなくプリントアウトをするまでが競技で、昨年はそこでサイズが合わないというミスをしてしまったので、今回はプリントアウトする前に何回も確認しました。一人できれいにプリントでき、とてもうれしく安心しました。

帰りの日、飛行機の搭乗手続をしていると、写真撮影の部というのがイヤホンから聞こえてきて、1位で自分の名前が呼ばれたときは、鳥肌が立ちました。

金賞を受賞することができたのは、学校の先生方、協力してくれた友達、家族、昨年からの指導や写真展に招待して下さった私が師匠と呼んでいる商業カメラマンのおかげで、とても感謝しています。今回の大会で、自分の力を信じ、諦めず努力することで、結果がついてくることが分かりました。これからもいろいろなことに挑戦していきたいです。



講評

主査 村上 光明

写真撮影競技は昨年の第40回愛知大会から再開されました。

前回の6名から今回は13名のエントリー、今後は更に地方大会等でも盛んに行われると思います。回を重ねる毎に競技の内容や撮影技術もレベルは高くなります。競技テーマは開催会場の「東京ビッグサイト」を多くの人に紹介する為のホームページ掲載写真、パンフレットに掲載する写真です。選手は競技前に統一のカメラ機材・PC・画像処理ソフト・プリンターの確認後にビッグサイト内外の撮影ゾーンや禁止ゾーンを聞き撮影構想を練っていました。

競技の主な内容は「午前競技はビッグサイト内外の撮影そして撮影マナー」「午後競技は撮影したデータをPCに取り込む作業」「プリントする写真を選び画像処理ソフトで明るさ・色合い・サイズ調整作業」仕上げは6点を指定サイズにプリントし競技は終了です。特に今回は人物撮影も加わり、更にビッグサイトの商業施設のロゴや店舗の撮影禁止事項も重なり選手たちは戸惑いながらの撮影でしたが、逆に撮影時の工夫が審査の評価に大きく表れました。

現在の職業写真は撮影後の画像処理も求められます。審査を進める中、プリントまでの工程では僅差でした。提出された6点のプリントの内容が最終審査に大きく影響しました。メカニクな技術より表現技術に差が出たと思います。課題テーマは『行ってみたい!東京ビッグサイト』でした。上位入賞した提出写真は表現技術が特に素晴らしいと審査委員一同が評価していました。写真は沢山撮ることが上達の近道。

最後に選手皆様の熱意と高齢・障害・求職者雇用支援機構のご努力、そして東京都の皆様にご敬意を表して講評と致します。



■ 参加選手数 8名

パソコン組立では、制限時間の中でデスクトップ型パソコンの分解、指定された部品のメンテナンス、再度の組み立て及びソフトウェアのインストールや設定を行い、パソコンとして利用できるようにします。具体的には、電源、マザーボード、ハードディスクなどのパーツを取り外し、必要なメンテナンスを行って、パソコンケースにパーツを順番に設置し、結線していきます。さらに、組み立てたパソコンに、OS (Windows 10) をインストールし、ネットワークに関する設定をするなど利用できるパソコンに仕上げます。選手はハードウェアとソフトウェアの両面から作業を行い、その完成度の確かさや正常に動作するかを競います。



金賞受賞者の感想

原田 大 熊 本 県

この競技を復活していただき、大会関係者、競技委員の皆様には感謝申し上げます。

今回の大会では、OSのインストール後に画面出力がなくなり、1時間ほど何の作業もできませんでしたが、これまで遭遇したトラブルから可能性があるものを順番に潰していき、無事解決できました。既製品を分解・整備するため、既存の部品の配置や配線の取り回しにとらわれがちになりますが、ノイズやエアフローを考慮して最善と思える形に組み立てました。

私は、普段は事務職として働く一方、地震や水害などで壊れたパソコン(以下、PCと略)の復旧や、再生PCの寄贈、修理を断られたPCを修理するボランティアとして活動しています。私にとって、職場で起こるPC関連のトラブル解決や質問、ボランティア活動での経験全てが、この競技の「練習」になっています。

小学生の時、自宅前の粗大ごみ置き場から拾ってきたラジカセを修理したことから始まり、趣味の範囲とはいえ、これまで数えきれないほどの家電やPCの修理、製作をしてきたことが、今回の結果につながりました。この場をお借りして、私を信頼してくれた皆さんと、忙しいのに快く送り出してくれた職場の仲間へ感謝の気持ちを伝えたいと思います。

最後に、この競技二度目の金賞を取ることができた自分を誇りに思うとともに、この結果に慢心することなく、さらに経験と努力を重ねていきます。本当にありがとうございました。



講評

主査 相良 佳孝

パソコン組立の競技は8名の選手で行いました。4時間の競技時間の中で基本的には準備された部品からパソコンを組み立て、完成したパソコンにソフトウェアをインストールして各種設定をする競技です。

今大会のハードウェアの面では、組み上がっているパソコンのCPU、メモリ、SSDなどのパーツを分解し、一部の部品についてはメンテナンスをするというように、分解とメンテナンスの作業が追加されました。これにより、ただ組み立てるだけでなく、部品や配線を取り外す際に無理に力を入れてないか、取り付けネジなど細かい部品も含めて正しく元に戻しているか、ケース内の空気の流れを考慮して配線がまとまっているかなども大切な要素になります。精密機器を扱うことになるのですべての作業で慎重に作業をしなければなりませんし、制限時間があるなかで新規の追加部品を含めて組み立て直すには、どのような順序・やり方で実施していくかは選手により異なり、それぞれのやり方で真剣に取り組まれていました。今大会もWebによる配信が行われていたので、ご覧いただけた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

ソフトウェアの面ではBIOSを設定し、オペレーティングシステム及び各種ドライバ・ユーティリティを順にインストールしていきます。また、その他にもHDDのパーティションを区切ってデータ領域を確保したり、ネットワークに関する情報を入力したりと様々な設定を行います。

このようにパソコン組立はハードウェアとソフトウェアの両方の知識・技能が必要となる競技になり、参加選手全員が高い技能を発揮されていました。

最後になりましたが、コロナ禍での対応が必要な中、選手、選手支援者、大会関係者のみなさまをはじめ、多くのスタッフのご協力をいただいたおかげで無事に競技を終えることができました。心から感謝申し上げます。参加された選手のみなさまにおかれましては、ご自愛いただきながら、今後もより一層ご活躍されることを祈念いたします。



■ 参加選手数 7名

■ 協賛企業等

EXTRA 有限会社エクストラ

KOCHI SYSTEM DEVELOPMENT 株式会社高知システム開発

SystemGear Always the next news 株式会社システムギアビジョン

Skyfish 株式会社スカイフィッシュ

筑波技術大学 Tsukuba University of Technology



パソコン操作は、視覚障害のある選手による競技種目で、競技時間は90分です。課題内容は、Excelのデータから適切な関数を使用して、データの抽出・加工・グラフ化する課題やインターネット検索を利用してExcelの必要な箇所に入力する課題、その他、Excelのデータを使いWordへの差し込み印刷やパワーポイントのスライド修正課題、Excelのデータを処理して、データから導き出される傾向を分析するなど多岐にわたります。

視覚に障害がある方は、パソコンを利用できるようになったことで、情報へのアクセスが格段に向上し、日常生活や仕事で多くの方が使用しています。競技では、パソコンの画面情報読み上げソフトや、画面表示拡大ソフト、拡大読書機等の支援機器を活用して、パソコン操作技能を競います。



金賞受賞者の感想

井内 利奈 大阪府

「アビリンピックに出てみませんか？」

そんな声をかけていただいたことがきっかけで、今大会に参加しました。そのときはアビリンピックについてよく知らず、全国大会に出場するとは思っていませんでした。

それからは、事前課題を確認し、徐々に効率的な操作方法や作業時間についても意識して取り組むようになりました。

そして迎えた大会当日、何よりも会場の雰囲気によって圧倒されました。全国から集まった選手たちの競技にかける熱意が伝わってきて、刺激を受けました。本番では、手順を間違えてやり直したり、機械トラブルで焦ってしまったりと想定外のこともありましたが、楽しみながら行うことができました。全国大会という舞台上で自分の力を発揮することができたことは、かけがえのない体験となり、自信にもなりました。

視覚障害があっても事務職として働き続けたいと考え、画面表示拡大ソフトや読み上げソフトを活用したパソコンの操作方法について学んできましたが、今回このような結果につながり、嬉しく思います。今後もスキルアップを図れるよう、一層の努力を重ねてまいります。

また、大会関係者の皆様、引率して下さった大阪府職員の皆様には、大変お世話になり厚く御礼申し上げます。そして、勤務先の方々、支援機関の先生方には、日頃からご尽力を賜り、心より感謝しております。

最後に、次回以降出場される方は、是非思いきりチャレンジしてみてください。きっと、想像以上に多くのものを得ることができるのではないかと思います。



講評

主査 石川 充英

今回の出題は、どの課題も実際の業務で使用する頻度が高いものを出題しました。具体的には、エクセルの関数とグラフ作成、エクセルで作成したグラフをパワーポイントで利用する、エクセルのデータをワードの差し込み印刷機能で利用する、インターネットからデータを確認してエクセルファイルのフォーマットに記載するなどでした。

また、公開課題のほかに、エクセルの基本関数、はじめて確認するエクセルのデータを処理して読み取れるものを報告するデータ処理について、本番課題では追加して出題しました。

選手みなさんは、公開課題を通してよく学習されていたと思われます。一方、はじめてのデータをどのような角度から処理して分析するのか、そのためにはどのような機能を使うのか、たとえばピボットテーブルの活用、時間短縮のための基本的な操作など、もう少し力をつける必要があるとも感じました。

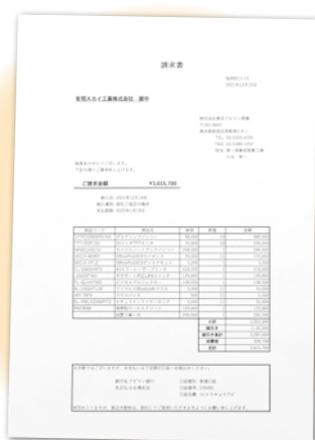
視覚障害者は画面情報読み上げソフトや拡大表示機能などの支援機器を活用することにより、このようなパソコン操作は可能となります。そのようなパソコン操作力をもつ視覚障害者の方が、ひとりでも多く就労することができ、また継続勤務して、力を発揮していただきたいと切に願います。

視覚障害者にも従来のエクセルやワードだけではなく、テレワークにより導入が加速化されたチャットをはじめとするコミュニケーションツールなど、さまざまなソフトウェアの操作力がますます重要となってきています。視覚障害者ご自身のたゆまぬ努力はもちろんですが、Webサイト、コミュニケーションツール、基幹システムなど視覚障害者が画面情報読み上げソフトなどの支援機器を使う際のアクセシビリティや働くための環境を整えるなど、合理的配慮に多くの企業や社会が理解を示して欲しいと思います。



■ 参加選手数 30名

競技課題は、「アンケートの入力」、「ワープロ文書の修正」及び「帳票の作成」で、データ入力・修正等の速さと正確さを競います。「アンケートの入力」では、いかにミスなく多くのアンケートを入力できるか、「ワープロ文書の修正」では、いかに早くミスを発見して正確に修正できるか、そして「帳票の作成」では、文字・数字の正確な入力だけでなく、数式や書式設定も使って体裁の整った帳票を作成できるかに注目です。



金賞受賞者の感想

渡部 雄太 東京都

今回が3回目の全国大会でした。前は銀賞だったので、結果発表ではドキドキして、金賞を受賞した時はびっくりしました。最後のアビリンピック出場が金賞で終わり、3年間の努力の成果を發揮することができて、嬉しく思います。

初めてアビリンピックに挑戦したのは高校2年生の時、放課後等デイサービスの方に勧められたのがきっかけでした。その時は努力賞だったので、もっと頑張りたいと思いました。

過去の問題を参考にした例題を両親に作ってもらって、大会の2か月前から、毎週日曜日に時間を決めて練習に取り組みました。指示書を見逃したり、ワープロ文書の間違いを見落とすことのないように、集中して取り組みました。アンケート入力は、メールアドレスをしっかりと見直すことを心がけました。

本番では、最後まで見直しをして、これまで頑張った成果を發揮することができました。

これからアビリンピックに出場する方も、ぜひ努力して練習して下さい。初めて出場する方も、2回目の方も、3回目の方も、応援しています。これからも全国アビリンピックを、私も応援していこうと思っています。

これまで応援してくれた家族や祖父母、職場の方々、ありがとうございました。

この大会を通して身につけた力を、これから仕事でも活かしていきたいと思っています。



講評

主査 落合 昇

平成17年の第28回山口大会から始まった本競技は、通算14回目を数えます。今回は、北は北海道、南は沖縄まで各都道府県から、30選手にご参加いただきました。昨年よりも多くの選手に参加いただけたこと、嬉しく思います。

競技は、前回大会同様、アンケート入力、文書修正、帳票等作成の3課題各30分により実施されました。特にアンケート入力では各選手のスピードが上がっていることを実感するとともに、全体としてもレベルが高い大会であるように感じました。

課題1については、全体として入力の速度と正確性が増しており、仕事として働く上でも基盤となる技術だと考えていますので非常に良い傾向だと思います。課題2については、文字の異変に気付いて修正しなくてはいけないという意味で、文章として捉えすぎているかもしれません。文面で気づく方法の他に、間違い探しのように違和感で探す方法もあります。是非、皆さんなりの方法で修正速度を上げ、その正確性をより高めていただきたいと思います。課題3については、例年と大きく変えない指示内容としました。その分、しっかりと把握して対応されている選手が多く、入力やチェックだけでなく、表計算に関するスキルも高まっている点には目を見張るものがあり、全体的にレベルが高まっているように感じました。競技レベルが上がったことは選手の皆さんだけでなく、指導者の方も熱心にご指導されているのだらうと感ずるものがありました。

現在の世の中を取り巻く環境から、選手の皆さんは練習方法も苦心されていたのではないかと思います。その分、パソコンを利用した作業はより求められているとも言えます。今後も、この競技で培った能力が社会で活かせる機会はたくさんあると思います。これからも、入力の正確さ、スピード、そしてミスを見逃さない力を身に付けて、社会へ羽ばたくとともに、次年度の全国大会で上位を目指してがんばって下さい。

末筆になりますが、ご協力いただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



■ 参加選手数 12名

■ 協賛企業等

JUKI JUKI販売株式会社

競技課題は、「エプロンの縫製」です。選手には、裁断された9枚のパーツ（土台1枚、ポケット2枚、見返し1枚、肩ひも2枚、腰ひも2枚、フリル1枚）が配付され、ミシン、アイロン、はさみ、目打ちなどの道具を使用して製作します。製作するにあたっては、各パーツに必要な「アイロンがけ」や「ミシン縫い」の作業を行ったあと、これらのパーツをミシン操作で組み合わせます。最後に仕上げの「アイロンがけ」を行って完成となります。布地の表と裏を正しく見極め、アイロンを使って縫い代折り巾やくせとり、ミシンの正確な縫い巾等、各工程に合わせた適切な技術・判断力が必要です。



金賞受賞者の感想

炭田 大介 宮崎県

これまで縫製競技に今大会をあわせて4回出場しました。今大会ではこれまで出場した時に駄目だった部分、ミスをしていた部分を見つめ直しながら練習に取り組みました。

業務が多忙な時期と重なり、練習を始めたのは12月に入ってからです。練習を始めた当初は部分縫いからはじまり何回かしてからエプロン1枚を時間内に縫う事をしました。

最初、エプロン1枚を仕上げるのに時間内に出来ず悩んでいました。家に帰り何度も頭の中でエプロンの手順を復習しました。練習でも気を付けて縫わないといけない部分を先生に聞きながら、作るスピードも少しずつあげていきながら何とか時間内に縫える様になりました。

本番では、練習してきた事を思い出しながらエプロンを作っていました。競技が終わって反省点がいくつかあり自分でも納得いかない気持ちになりました。

結果発表の時は丁度仕事をしていました。仕事している最中、同じ社員の方が報告に来てくださり金賞の事を聞いたので、正直びっくりしました。やっぱりあの時何度も諦めず練習に取り組んで良かったなと思いました。あらためて会社の皆さん、先生に感謝したいです。これからアビリンピックに出ようと思っている皆さん、是非参加して自分の技能を知り高めてください。



講評

主査 鈴木 皆子

第41回全国障害者技能競技大会は東京ビッグサイトにて、「東京に 光るその技 開く夢」のスローガンのもと、縫製部門はエプロン製作で、選手及び関係者のみの参加、競技の様子はWeb配信での開催となりました。前大会がコロナ禍で出場を辞退された方、結果に納得できず悔しい思いをした方のリベンジもあり、昨年より3名多い12名で競技が進められました。今大会においてもコロナ禍で十分に練習ができなかった方もいると推察いたします。

競技は午前の方が9時から12時までの3時間、午後の方が13時から14時までの1時間、計4時間でした。整然とした雰囲気の中、ひたむきに取り組む選手達の雄姿を感じましたが、時間が経つにつれ手直しや用具の忘れに気がつき焦りが出たり手が止まりがちな選手も見受けられました。立体的な面やアイロン工程時の用具の使い方、テクニック方法、くせ取り作業の仕方、手指の扱い方、フリルのギャザーの寄せ方、縫い代の潰し方、本体に付ける時の配分等に苦戦が見られました。今回の様子を受け、選手と指導者共に今後につなげていただくために、課題仕様に基づいた作業手順や、どの箇所での用具を使うか、取扱い方等を細かく決め、積み重ねの練習が必要かと感じました。訓練が今後どのような場面においても強い精神力や集中力の向上へつながると強く感じております。

金賞1名、銀賞1名、銅賞3名と初参加者を含む5名の入賞結果で終わることができ、選手と指導された方の努力とお力添えがあつての賜物だと感じております。技は宝なり継続は力なり、何事にも今大会の気持ちを忘れずどんな事にも挑戦する気持ちを持って頑張ってください。多くの方が目標に向かって輝き、就労への道が広がる本大会に関わることができたことに御礼申し上げます。

最後に競技スタッフ、大会事務局及び関係者の方々のおかげで競技が円滑に進行できましたことを心より感謝申し上げます。



■ 参加選手数 12名

■ 協賛企業等

● 東京都立城東職業能力開発センター

● 東京都立城南職業能力開発センター



競技課題は「蓋付き小箱」の製作です。家具製作には、「挽く」、「欠き取る」、「掘る」または「削る」等の基本的作業があります。この作業には、「のこぎり」「のみ」「かんな」などの手工具を使用しますが、これらを使いこなすことは、機械作業ではできないような完成度の高い、洗練された製品を作り出すことを可能とします。競技課題のうち、箱本体は、部材の長さを木づくりし、図面を見ながら墨付けを行い、のこぎりのみで組み手を加工し、仮組み・目違い払い（板を組み合わせてできる段差をかんなで削る作業）を行った後、底板取り付け用の段欠き（角材や板材の一边を直角に欠きとる）をします。そして、仕上げ削りの後、釘と接着剤で組み立てて、一部ダボを埋めてから、全体をかんなで削って完成させます。また、箱の蓋は、部材を仕上げ、面取り後に、留加工（棒材を45°にのこ挽きし、かんなで削る）を施し、全体を平紐で巻いて組み立てます。表裏の目違いを払った後、本体との位置決めを行うための棧を内側に打って完成となります。



金賞受賞者の感想

日高 優翔 鹿児島県

私がアビリンピック全国大会を知ったのは、鹿児島障害者職業能力開発校に入校する前のオリエンテーションでした。最初はそれほど強い気持ちではなかったのですが、大久保先生の指導を聞いていくうちに、少しずつやる気に満ちあふれて「挑戦してみたい」、「メダルを取りたい」といった気持ちが強くなっていきました。

そして第2課程に入り、本格的に練習が始まりました。かんな・のこ・のみなどを使う基本的な練習は6月頃から重ねてきましたが、3ヶ月間という短い期間で金賞を取ることができるのか、とても不安で寝付きの悪い日がたくさんありました。ですが、指導をくださった先生方や、応援をしてくれたクラスの仲間たちのおかげで、本番まで集中して練習に励むことができました。しかし、練習では上手に出来た日もあれば、上手くいかない日もあり、墨付けで寸法を間違えたり、蓋の留がピッタリ合わなかったりと、たくさん失敗をしました。でも、この失敗があったからこそ、目標に向かって成長できました。また、本番と同じ時間帯での練習を続けてきたことで、緊張せずに普段どおりのペースで落ち着いて作業することが出来ました。

作品に傷が付いてしまったこともあり、成績が発表されるまで、とても不安でした。帰りの空港で、みんなで発表を待ちました。木工は最後に発表されるので最後までドキドキしていましたが、金賞で自分の名前が出た時には、とてもうれしかったです。諦めずに練習を続けてきてよかったです。

指導や応援をしてくれた人たちにとても感謝をしています。今回のこの貴重な経験を忘れずに、自分自身の成長のために努力をし、就職に繋げていけるように頑張っていきたいと思います。



講評

主査 小林 正道

木工競技は、12月18日(土)東京ビッグサイト展示棟で行われました。コロナ禍での開催のため開会式・閉会式はWeb配信、選手及び関係者のみでの実施となり、競技の様子は、ライブ配信されました。会場入口では、コロナ感染拡大を防ぐため検温・手のアルコール消毒やマスク着用のチェック・ワクチン2回接種やPCR検査済の確認を実施していました。

競技は、午前9時に開始し、昼食休憩をはさみ終了が15時(延長終了時間16時)としています。選手は、手順良く蓋部材の仕上げ・留切り・面取りの順に作業を進め組み立て、次に本体の長手部材・妻手部材(短手)の木取りを行い、三枚組接ぎ墨付け・加工・底板段欠き(作業補助員)・ボール盤による穴あけ・仕上げ・組み立て・底板の削り込み・釘止めを手際よくこなしていました。2名の選手が延長時間に入りましたが、打切り時間前には課題を提出することが出来ました。

木工競技は、12名の参加で行われ、競技課題は、蓋付き木箱の製作です。競技標準時間は、5時間とし、さらに1時間後を打ち切り時間と設定しています。今大会は、課題内容を少々変え、本体部材を長手部材と妻手部材(短手)に選手が切り分け、木づくりを行うようにしました。提出課題の評価は、加工精度、できれば、作業時間、作業態度の4項目で行い、減点数の少ない方が上位となります。競技の結果は、金賞1名、銀賞1名、銅賞3名で、金賞は、ほぼ完璧な出来栄でした。銀賞・銅賞についても高得点で、技術のレベルが上がっていることを実感しました。

昨年から、コロナ蔓延防止に伴う施策でかなり練習にも支障があったと思いますが、選手と指導者が一体となり練習を重ねた結果が表れていました。最近では、2年3年と続けて同一施設からの参加者が増え、指導者の技術が向上しているようです。日頃から研鑽を積み競技大会に参加された選手の皆様及びサポートされた方々に敬意を表します。



クラフトテープかごバッグ製作



競技課題は次の2作品の製作です。

課題① 中カゴの製作(A4サイズが入る大きさ)

縦9cm横33cm高さ22cmの大きさのかごを製作します。工程が多いため、A工程担当は材料切り、土台作り、立ち上げの作業を行い、B工程担当は折り込み、取っ手付け、取っ手巻き作業を別々に行います。

課題② 四つだたみ小物入れの製作

小物が入るくらいの大きさで、取っ手の付いたかごです。複数のテープを組み合わせ、四角い形の模様を作り、形にしています。



講評

デモンストレーション実施スタッフ 荻原 弘美

今回、初めて技能デモンストレーションとして、クラフトテープカゴバッグの作成を行いました。基本編みを中心として取っ手のついた「中カゴ」、四つだたみ編みの編み方を用いた「小カゴ」の2つを作成しました。

競技としてカゴを作成するという事で、どのように評価するのか考えた上で、カゴの造形の美しさはもちろん、時間内で完成させるということが課題でした。今回のデモンストレーションでは、中カゴの役割を分割し、2人の選手に作成してもらい、時間内で完成させることができました。しかし、個人競技として考えた上で、一人が一つの製品を時間内に仕上げ完成とした方が望ましいのではないかと思います。カゴの種類もしっかり選んでいく必要があると感じ、いい勉強になりました。

参加された選手の方々は、普段と違う場所でカゴを作るので、緊張され戸惑っている方もいらっしゃいましたが、競技の時間が経つにつれ、いつも通りにカゴを作成することができました。大会に出たことで、選手たちも良い物を作りたい、新しいカゴにも挑戦し出来る事を増やしたいという意欲が更に高まるものとなりました。

今回新型コロナウイルスの関係で、無観客開催でWeb配信となりましたが、遠くにいる選手のご家族や職員も見ることができ、更にクラフトテープカゴバッグに興味を持たれている方など、様々な方にクラフトテープカゴバッグの競技を見て、どんなものなのか知っていただけたかと思います。クラフトテープカゴバッグでは、障害があってもなくても、どの年齢の方でも作れるものだと思います。様々なところで関心が高まり、多くの方に理解していただけたら幸いです。

最後になりますが、大会事務局、関係者の方々、初めての参加で不慣れだった私たちスタッフや選手に、手厚いサポートや支援をしていただいたおかげで、デモンストレーションを円滑に進めることができました。心より感謝申し上げます。

OA機器等メンテナンス



競技は次の2課題によって行われます。

課題① リファイニング(清掃)作業

4名1組のチームで、メンバーが協力しながら、1台の中古コピー機を新品同様のクオリティを目指し、綺麗に磨き上げていきます。制限時間内に日本一綺麗な中古コピー機に完成させられるかを競います。

課題② リペア(修理)作業

コピー機内部にあるユニットを分解し、故障の原因を探しながら、劣化・破損した部品を修理交換します。修理したユニットが正常に動作することを確認し、丁寧に梱包するまでの時間を競います。



講評

デモンストレーション実施スタッフ 山本 憲二

このたび、全国アビリンピックデモンストレーション企業として、弊社の知的障害者の勇姿や熱い思いをみなさんに知っていただけたことを、非常に嬉しく思っています。

競技課題である『中古コピー機のリファイニング作業』および『リペア作業』は、集中力と高度な技術が求められる作業だと自負しています。当日は弊社社員から選ばれた10名が出場いたしました。『中古コピー機のリファイニング作業』では、【日本一綺麗な商品】を合言葉とし、チームリーダーを中心に4人一組のチームで、1台の中古コピー機を様々な道具を駆使し、隅々まで徹底的に清掃を行い、制限時間内にいかに綺麗に磨き上げられるかを競いました。開始時は緊張した表情を見せていたものの、本来であれば6時間程度かかる作業を両チームとも、おおよそ4時間で、非常に高品質な中古コピー機に完成させました。『リペア作業』は、【完璧】が求められる非常に高度な作業であり、コピー機内部にあるユニットを、数十種類の大小様々な形のネジやパーツを外して分解します。マニュアルを見ることなく、各自の判断で必要な部品を新品と交換して、問題なく使用できる状態に上げるまでを、どれだけ迅速に且つ正確に修理できるかを競いました。競技者も緊張の中、いつも以上の実力を発揮し、最高の技術を披露してくれました。

今回は【職人】と呼ばれる知的障害者の作業を、直接生で見ただけでなかったことが残念でしたが、ライブ配信を通じて知的障害者の仕事を全国のみなさんにお伝えすることができたことは大変光栄で、参加した彼らにとっても非常に貴重な経験となりました。「障害者の仕事を世の中へ拡める」という企業理念のもと日々事業活動に取り組んでいる弊社にとって、このたびの出場はまさにそれを実現できる場でした。障害者の可能性を信じ、ひとりでも多くの障がい者を雇用できるような社会の実現を目指していきたいと大会を通じて改めて身の引き締まる思いでいます。このような貴重な機会をいただきましたことに、心より御礼申し上げます。

大会の様子・表彰 (Web配信)





大会の様子

メダル



銀賞

金賞

銅賞

楯・参加記念品



努力賞



特別表彰



記念品